

川崎市感染症情報センター事業報告書

平成28年（2016年）

目次

第1章 感染症発生動向調査事業

1	感染症発生動向調査事業の概要	2
(1)	調査対象疾患	2
(2)	定点医療機関	2
(3)	運営方法	2
(4)	情報発信	3
2	感染症発生動向	4
(1)	患者情報	4
ア	全数把握対象疾患	4
(ア)	一類、二類、三類感染症及び新型インフルエンザ等感染症	4
(イ)	四類感染症	6
(ウ)	五類感染症	7
イ	定点把握対象疾患	8
(ア)	インフルエンザ定点把握対象疾患	8
(イ)	小児科定点把握対象疾患	9
(ウ)	眼科定点把握対象疾患	20
(エ)	基幹定点把握対象疾患	22
(オ)	性感染症定点把握対象疾患	31
ウ	感染症法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症	35
エ	獣医師が届出を行う感染症と対象動物	35
オ	集団施設における感染症発生情報	35
	集計表	37
(2)	病原体情報	48
ア	インフルエンザ検査状況	48
イ	ウイルス性集団胃腸炎検査状況	48

ウ	麻疹ウイルス検出状況	49
エ	その他のウイルス検出状況	49
オ	ウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス	50
カ	チフス菌等のファージ型別検出状況	51
キ	腸管出血性大腸菌検出状況	51
ク	赤痢菌及びコレラ菌検出状況	51
ケ	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌検出状況	51
コ	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎検査状況	52
サ	結核接触者検診におけるインターフェロングamma遊離試験	52

第2章 FETP-Kプラン

1	FETP-Kプランの概要	54
2	平成28年度の取組	54
	別添1 (FETP-Kプラン概要)	58

第3章 感染症情報発信システム (KIDSS)

1	感染症情報発信システムの概要	60
2	平成28年度の取組	61
	別添2 (川崎市感染症情報発信システム英語版パンフレット)	62

第4章 調査研究

1	研究内容	70
2	学会発表	71
3	論文・報告書等	72

第5章 会議等

1	視察実績	76
---	------	----

2	会議等	76
---	-----------	----

3	講師派遣等	79
---	-------------	----

資料

・	川崎市感染症発生動向調査事業実施要領	83
---	--------------------------	----

・	今、何の病気が流行しているか！	108
---	-----------------------	-----

第 1 章

感染症発生動向調査事業

1 感染症発生動向調査事業の概要

(1) 調査対象疾患

川崎市における感染症発生動向調査事業は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下、「感染症法」という。）及び国の定める「感染症発生動向調査事業実施要綱」に基づき、「川崎市感染症発生動向調査事業実施要領（資料参照）」を定め、全数把握対象疾患及び定点把握対象疾患を調査対象としている。

平成 28 年 2 月 15 日からジカウイルス感染症が四類感染症として追加された。

(2) 定点医療機関

平成 28 年第 13 週までの患者定点医療機関数は、小児科定点 33 医療機関、内科定点 21 医療機関、眼科定点 7 医療機関、基幹定点 2 医療機関、性感染症定点 7 医療機関、疑似症定点 76 医療機関であり、うち 17 医療機関が病原体定点を兼ねていたが、市内人口の増加に伴い、小児科、内科、眼科及び性感染症定点の医療機関数の見直しを行い、平成 28 年第 14 週から、小児科定点 37 医療機関、内科定点 24 医療機関、眼科定点 9 医療機関、性感染症定点 12 医療機関に変更となった。なお、小児科定点及び内科定点は、インフルエンザ定点としての機能を担っている。

表 1 感染症発生動向調査事業定点医療機関数（平成 28 年 12 月 31 日現在）

定点種別（対象疾患数）	患者定点数 （～平成 28 年第 13 週）	患者定点数 （平成 28 年第 14 週～）	病原体定点数
小児科定点（12）	33	37	7
内科定点（1）	21	24	7
眼科定点（2）	7	9	1
基幹定点（9）	2	2	2
性感染症定点（4）	7	12	
疑似症定点（2）	76	76	

(3) 運営方法

全数把握対象疾患は、診断後直ちに（五類感染症（麻しん、侵襲性髄膜炎菌感染症は除く。）は 7 日以内）保健所支所に届出が行われるほか、小児科定点、内科定点、眼科定点及び基幹定点からの報告は週単位で、性感染症定点からの報告は月単位で行われる。ただし、基幹定点から報告される一部の疾患（薬剤耐性菌による感染症）については月単位となっている。

定点把握対象疾患のうち週単位で報告される疾患については、毎週月曜日から日曜日までに診断された患者を、小児科、内科、眼科の各定点は性別・年齢別の患者数、基幹定点は患者の性別・年齢・検出病原体名等を所定の様式に記入し保健所支所に送付する。

定点把握対象疾患のうち月単位で報告される疾患については、当該月に診断された患者を、性感染症定点は性別・年齢別患者数、基幹定点は患者の性別・年齢・検体採取部位等を所定の様式に記入し保健所支所に送付する。

疑似症サーベイランスでは、疑似症定点において報告基準を満たす患者が発生した場合に、症例分類・年齢・性別を所定の様式に記入し直ちに保健所支所に送付する。

医療機関から届いた情報は、保健所支所において感染症サーベイランスシステム（NESID）に入力し、川崎市感染症情報センターは、保健所支所からの情報を確認後、国へ送信する。

（４）情報発信

患者情報は週単位（月曜日～日曜日）で解析し、感染症サーベイランスシステム（NESID）から収集する全国の患者情報と併せて、週１回「感染症情報」として、市内医療機関、保健所、保健所支所、集団施設（保育園、小学校、中学校）等へ還元している。

また、感染症情報については、川崎市感染症情報センターのホームページ※¹及び川崎市感染症情報発信システム※²（Kawasaki city Infectious Disease Surveillance System : KIDSS）で公開し、医療機関や市民等へ情報を発信している。

さらに、定期的開催される川崎市感染症対策協議会及び川崎市感染症発生動向調査委員会において、患者情報等の解析内容を還元し、評価を行っている。

※¹ 川崎市感染症情報センターホームページ URL

<http://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/22-13-8-11-0-0-0-0-0-0.html>

※² 川崎市感染症情報発信システム URL

<https://kidss.city.kawasaki.jp>

2 感染症発生動向

(1) 患者情報

ア 全数把握対象疾患

(ア) 一類、二類、三類感染症及び新型インフルエンザ等感染症

a 区別届出数

平成 28 年における一類、二類、三類感染症及び新型インフルエンザ等感染症の届出数は表 2 のとおりである。

一類感染症の届出はなかった。二類感染症は結核 329 件の届出があり、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARS）、中東呼吸器症候群（MERS）、鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）の届出はなかった。

三類感染症は細菌性赤痢 1 件、腸管出血性大腸菌感染症 35 件の届出があり、コレラ、腸チフス、パラチフスの届出はなかった。

表 2 区別届出数（一類、二類、三類感染症及び新型インフルエンザ等感染症） (件)

	一類感染症	二類感染症		三類感染症					新型インフルエンザ等感染症	総数
	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱	急性灰白髄炎、ジフテリア、SARS、MERS、鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス		
総数	-	-	329	-	1	35	-	-	-	365
川崎	-	-	117	-	-	8	-	-	-	125
幸	-	-	44	-	-	4	-	-	-	48
中原	-	-	39	-	1	7	-	-	-	47
高津	-	-	30	-	-	6	-	-	-	36
宮前	-	-	31	-	-	7	-	-	-	38
多摩	-	-	40	-	-	-	-	-	-	40
麻生	-	-	28	-	-	3	-	-	-	31

b 月別届出数

平成 28 年における一類、二類、三類感染症及び新型インフルエンザ等感染症の月別届出数は表 3 のとおりである。

結核は 12 月が 36 件と最も多かった。細菌性赤痢は 7 月に 1 件の届出があった。腸管出血性大腸菌感染症は 8 月が 8 件と最も多かった。

表 3 月別届出数

(件)

	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
結核	329	25	19	27	32	30	35	23	15	33	28	26	36
細菌性赤痢	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
腸管出血性大腸菌感染症	35	1	-	-	-	4	2	7	8	5	3	5	-

その他の感染症の届出はなかった。

c 年齢階級別届出数

平成 28 年における一類、二類、三類感染症及び新型インフルエンザ等感染症の年齢階級別届出数は表 4 のとおりである。

結核は 60 歳以上が 171 件と最も多かった。腸管出血性大腸菌感染症は 5-9 歳が 6 件と最も多く、次いで 0-4 歳が 5 件と多かった。

表 4 年齢階級別届出数

(件)

	総数	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
結核	329	7	1	-	7	15	24	18	10	23	19	23	11	171
細菌性赤痢	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
腸管出血性大腸菌感染症	35	5	6	4	4	4	2	2	2	2	-	1	1	2

その他の感染症の届出はなかった。

事例 1 冷凍メンチカツを原因とする腸管出血性大腸菌による広域食中毒事例

平成 28 年 10 月に、神奈川県及び千葉県で販売されたそうざい半製品の冷凍メンチカツを原因とする腸管出血性大腸菌 O157 (VT2) による広域食中毒が発生した。患者は 1 都 5 県から報告され、患者数は 67 人であった。本市においては本事例関連の患者の届出が 3 件あり、菌株を分離できた 2 件の検体の MLVA 型別は、原因食品から分離された菌株及び他自治体で報告された患者から分離された菌株と一致した。なお、本市の届出患者 1 名は溶血性尿毒症症候群 (HUS) の発症が疑われ、入院加療を要したが、その後症状は改善し退院となった。

(イ) 四類感染症

平成 28 年における四類感染症の届出数は表 5 のとおりである。

E 型肝炎 8 件、A 型肝炎 2 件、ジカウイルス感染症 1 件、デング熱 5 件、レジオネラ症 17 件、レプトスピラ症 3 件の届出があった。

表 5 区別届出数（四類感染症）

(件)

	総数	四 類 感 染 症					
		E 型肝炎	A 型肝炎	ジカウイルス 感染症	デング熱	レジオネラ症	レプトスピラ 症
総数	36	8	2	1	5	17	3
川崎	12	2	-	1	2	7	-
幸	5	-	-	-	-	3	2
中原	4	1	-	-	1	2	-
高津	6	2	-	-	-	4	-
宮前	6	1	2	-	1	1	1
多摩	3	2	-	-	1	-	-
麻生	-	-	-	-	-	-	-

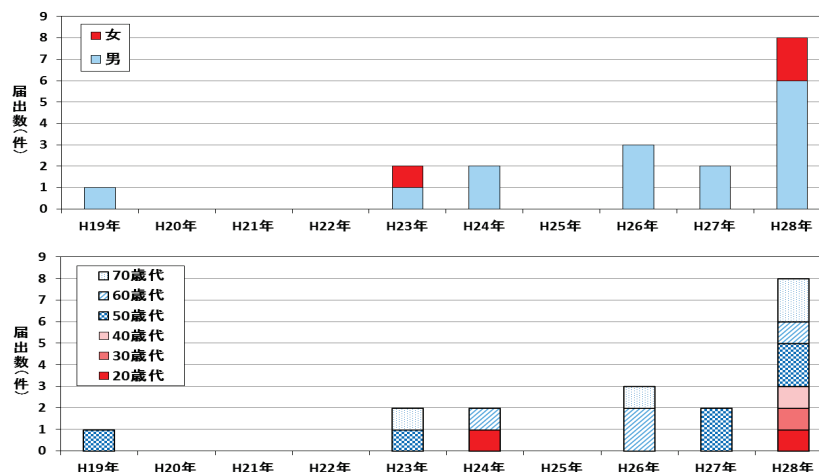
その他の感染症の届出はなかった。

事例 2 ジカウイルス感染症の国外感染事例

本市において、平成 28 年 2 月にジカウイルス感染症患者が 1 例発生した。本事例はジカウイルス感染症が四類感染症の対象疾患となって初の症例であった。患者はブラジルから帰国途中の航空機内で発症し、帰国後、発熱、発しんを主訴として医療機関を受診した。医療機関にて患者検体を採取し、川崎市健康安全研究所及び国立感染症研究所で PCR 検査を実施したところ、結果はいずれも陽性であった。その後患者の症状は回復した。

※川崎市における E 型肝炎の発生状況

平成 28 年は 8 件の届出があり、過去 10 年間で最多であった。性別では男性 6 件、女性 2 件であった。年齢階級別では、平成 27 年以前は 50 歳代以上の報告が多い傾向にあったが、平成 28 年は 20 歳代～40 歳代の報告が多くみられた。



(ウ) 五類感染症

平成 28 年における五類感染症の届出数は表 6 のとおりである。

アメーバ赤痢 25 件、ウイルス性肝炎 5 件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 24 件、急性脳炎 29 件、クロイツフェルト・ヤコブ病 1 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 5 件、後天性免疫不全症候群 19 件、ジアルジア症 2 件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 3 件、侵襲性髄膜炎菌感染症 2 件、侵襲性肺炎球菌感染症 48 件、水痘（入院例に限る。）10 件、梅毒 57 件、播種性クリプトコックス症 2 件、風しん 4 件、麻しん 3 件の届出があった。

風しん 4 件については、3 件は検査診断例、1 件は臨床診断例として届出があり、検査診断例 3 件のうち 1 件については、当所における PCR 法による検査結果は陽性であり、遺伝子型は 2B であった。他の 2 件は、抗体価は陽性であったものの、検体採取時期等の問題により当所における検査結果は陰性であった。また、臨床診断例 1 件については、届出時期の遅れにより検査は行われなかった。麻しん 3 件については、2 件が検査診断例、1 件が修飾麻しんとして届出があり、当所における PCR 法による検査結果はいずれも陽性で遺伝子型は全て D8 であった。

表 6 区別届出数（五類感染症）

(件)

	総数	五 類 感 染 症							
		アメーバ赤痢	ウイルス性 肝炎	カルバペネム 耐性腸内 細菌科細菌 感染症	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血 性レンサ球菌 感染症	後天性 免疫不全 症候群	ジアルジア症
総数	239	25	5	24	29	1	5	19	2
川崎	78	4	2	5	7	-	2	12	-
幸	14	4	1	-	-	-	-	1	-
中原	55	11	2	4	9	-	-	2	-
高津	17	2	-	-	-	-	-	1	1
宮前	47	2	-	12	9	-	3	2	1
多摩	19	1	-	1	3	1	-	1	-
麻生	9	1	-	2	1	-	-	-	-
		五 類 感 染 症							
		侵襲性イン フルエンザ菌 感染症	侵襲性 髄膜炎菌 感染症	侵襲性 肺炎球菌 感染症	水痘(入院例 に限る。)	梅毒	播種性クリ プトコックス症	風しん	麻しん
総数		3	2	48	10	57	2	4	3
川崎		2	-	8	3	32	-	1	-
幸		-	-	3	-	4	-	1	-
中原		1	2	15	2	3	2	2	-
高津		-	-	6	2	5	-	-	-
宮前		-	-	11	2	4	-	-	1
多摩		-	-	4	1	5	-	-	2
麻生		-	-	1	-	4	-	-	-

その他の感染症の届出はなかった。

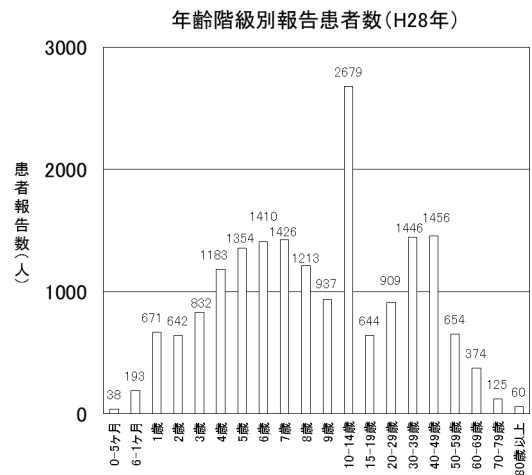
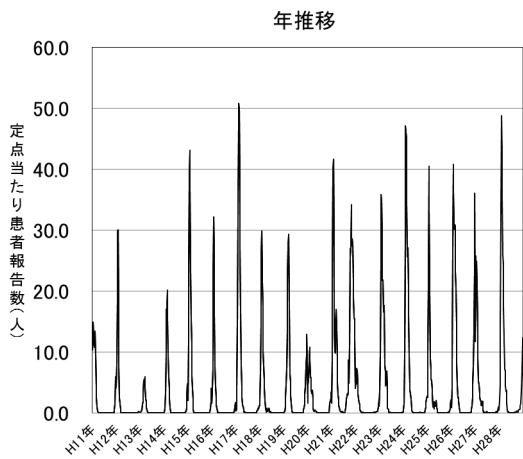
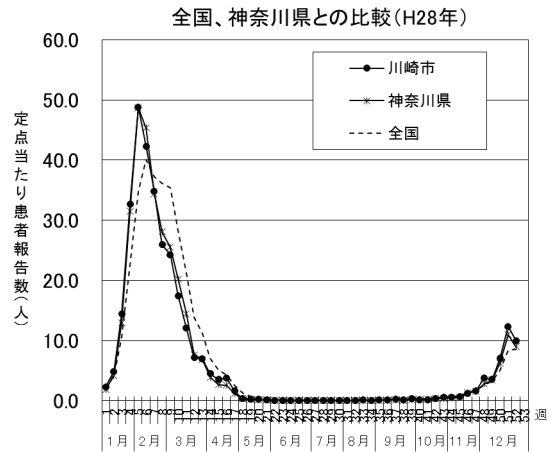
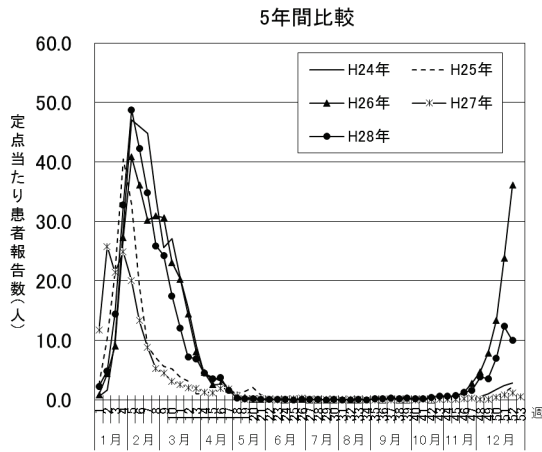
イ 定点把握対象疾患

(ア) インフルエンザ定点把握対象疾患

- ・インフルエンザ

平成 28 年の累積患者報告数は 18,246 人、定点当たり患者報告数は 331.45 人で、前年 (156.80 人) と比べて大幅に増加した。2015/2016*シーズンは、第 3 週 (定点当たり 14.43 人) に流行発生注意報基準値 (定点当たり 10.00 人)、第 4 週 (定点当たり 32.72 人) に流行発生警報基準値 (定点当たり 30.00 人) を超え、第 5 週 (定点当たり 48.78 人) に流行のピークとなった。第 5 週以降患者報告数は減少し、第 12 週 (定点当たり 7.17 人) に警報終息の目安である定点当たり 10.00 人を下回った。2016/2017**シーズンは、第 46 週 (定点当たり 1.23 人) に流行開始の目安である定点当たり 1.00 人を超え、例年に比べて 2 週間程度早く流行が始まった。年齢階級別では 20 歳未満が全体の 72.5%、10 歳未満が 54.3% を占めた。

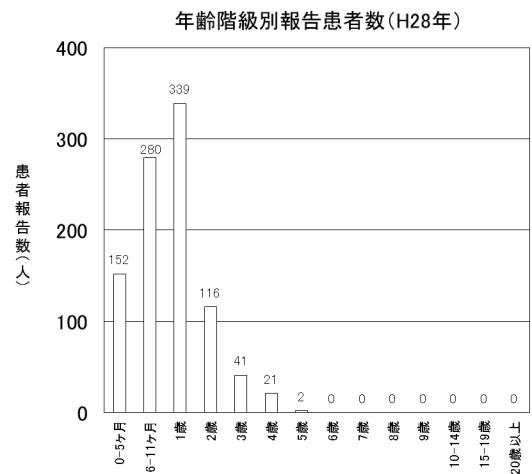
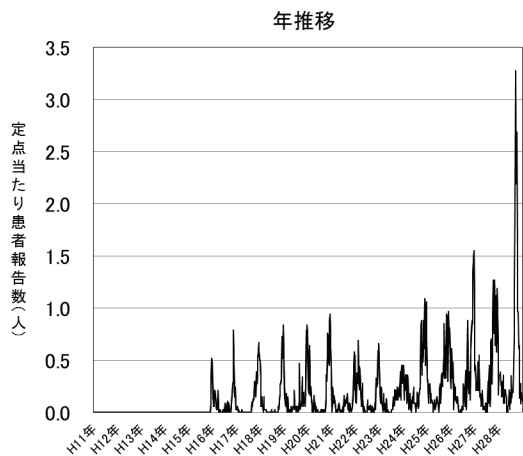
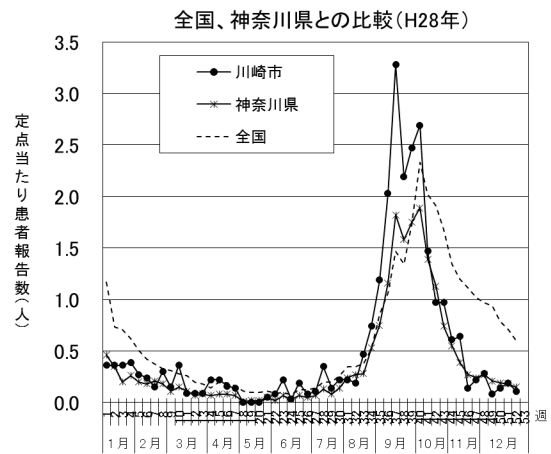
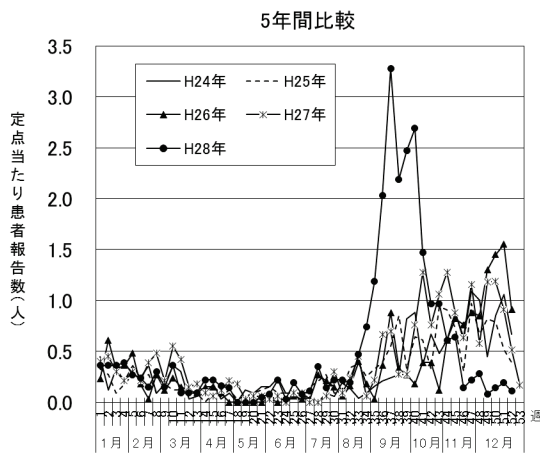
*平成 27 年/平成 28 年に相当 **平成 28 年/平成 29 年に相当



(イ) 小児科定点把握対象疾患

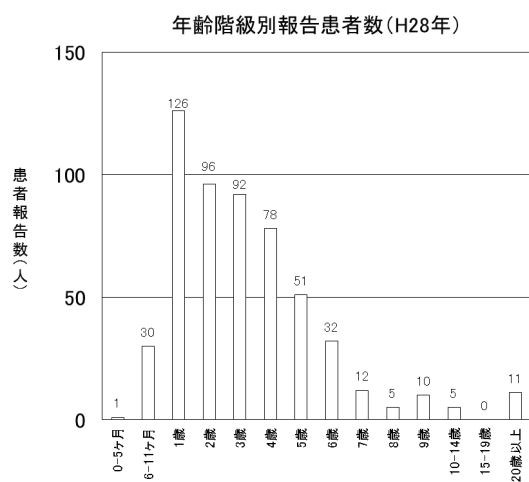
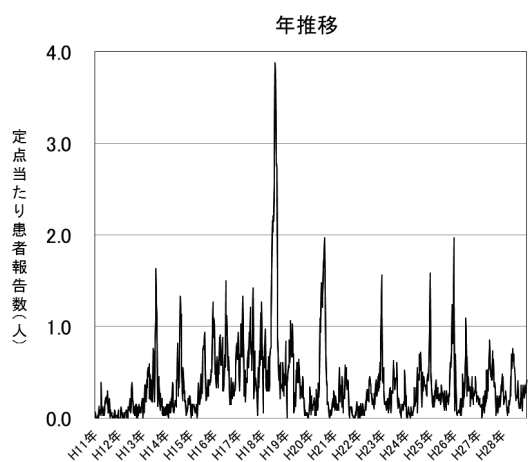
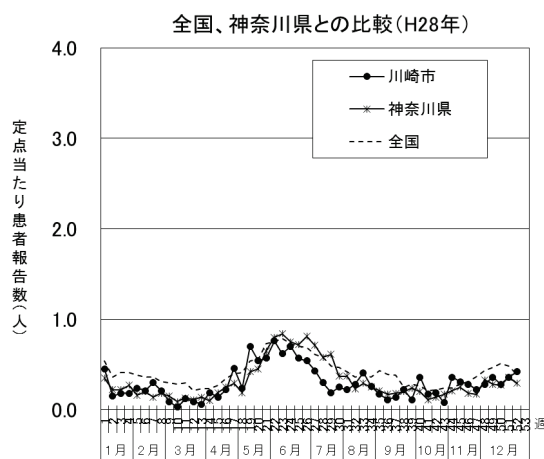
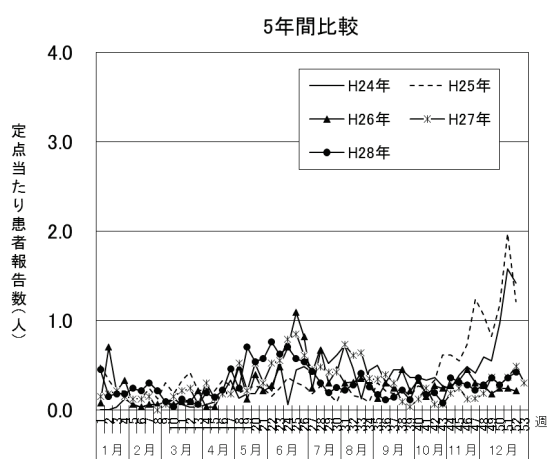
a RS ウイルス感染症

平成 28 年の累積患者報告数は 951 人、定点当たり患者報告数は 26.71 人で、前年 (20.97 人) と比べて増加した。8 月以降患者報告数が増加し、第 37 週には定点当たり報告数が 3.28 人となり、平成 15 年のデータ収集開始以降最大の報告数となった。10 月以降患者報告数は減少し、冬期の流行はみられなかった。年齢階級別では 1 歳が最も多く、1 歳以下が全体の 81.1% を占めた。



b 咽頭結膜熱

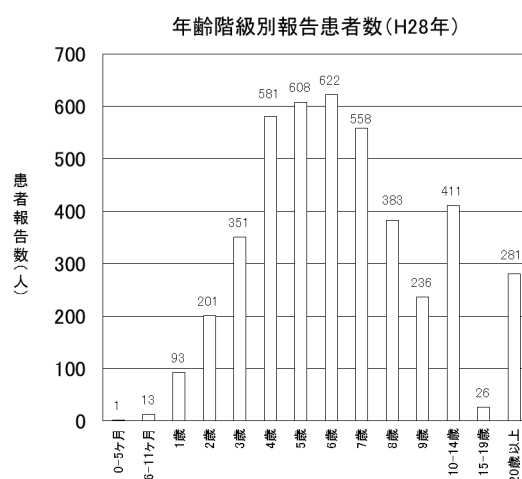
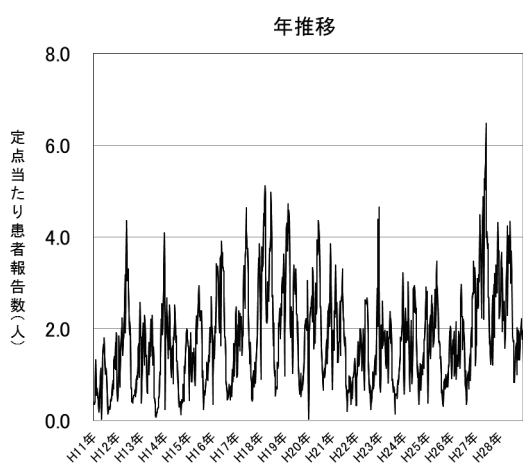
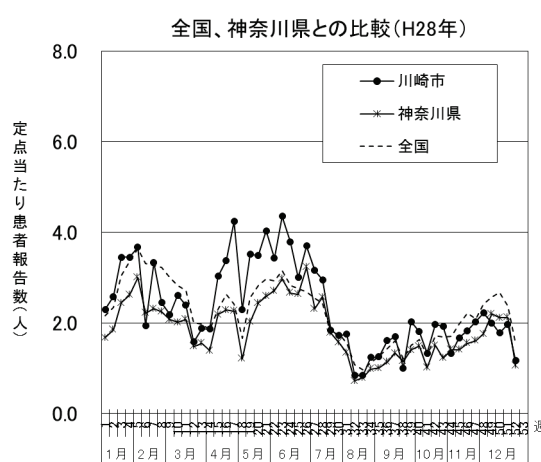
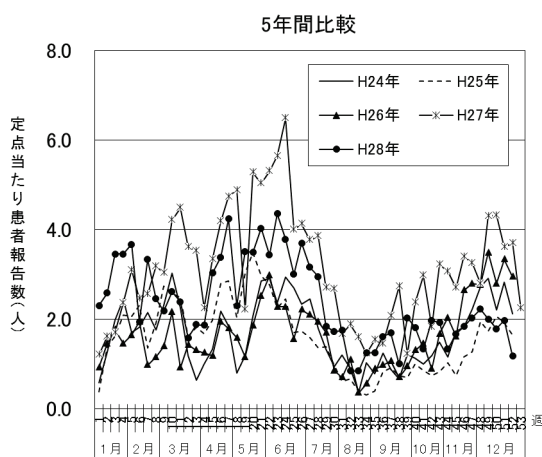
平成 28 年の累積患者報告数は 549 人、定点当たり患者報告数は 15.32 人で、前年（15.81 人）と比べてやや減少した。5 月中旬から 6 月中旬にかけて患者報告数が増加し、定点当たり患者報告数の最大値は第 22 週の 0.76 人であった。なお、平成 24 年及び平成 25 年にみられた冬期における流行は平成 26 年以降みられていない。年齢階級別では 1 歳が最も多く、1-4 歳が全体の 71.4% を占めた。



c A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

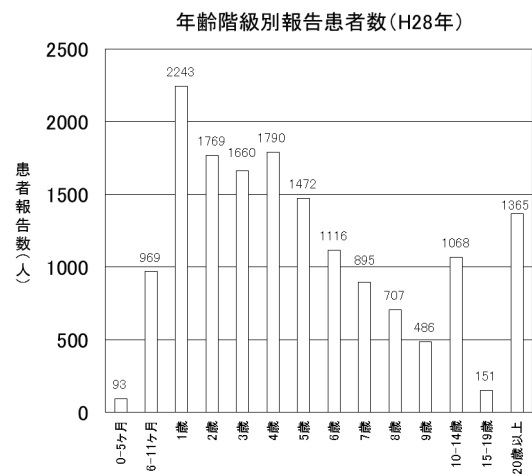
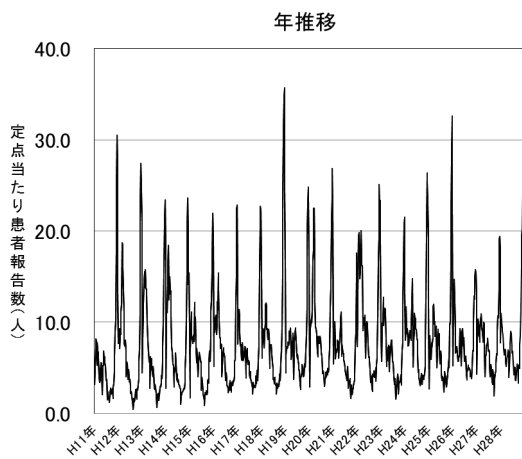
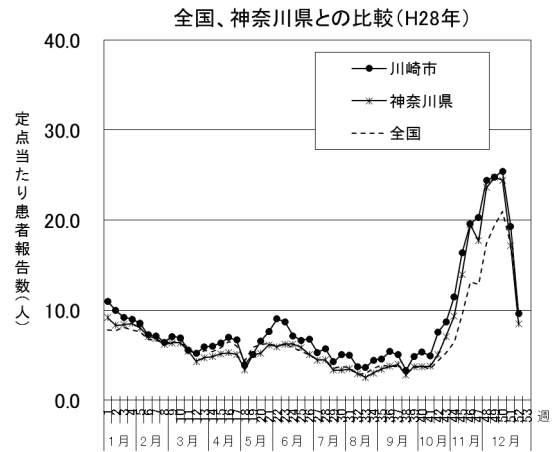
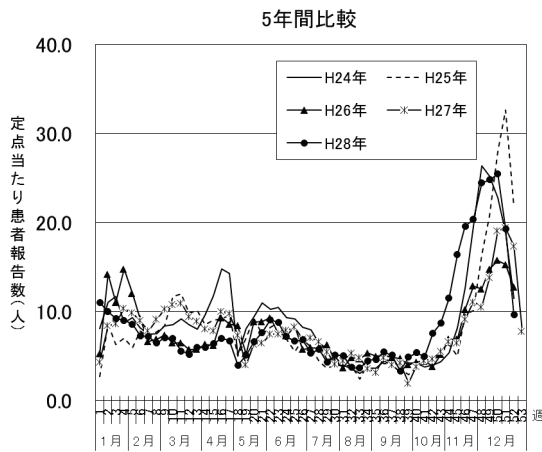
平成28年の累積患者報告数は4,365人、定点当たり患者報告数は122.86人で、前年(166.34人)と比べて減少した。1月から10月までは例年よりやや高いレベルで推移したが、11月以降は例年より低いレベルで推移し、定点当たり患者報告数の最大値は第23週の4.35人であった。

年齢階級別では6歳が最も多く、4-7歳が全体の54.3%を占めた。なお、平成28年の劇症型溶血性レンサ球菌感染症の届出は5件であった。



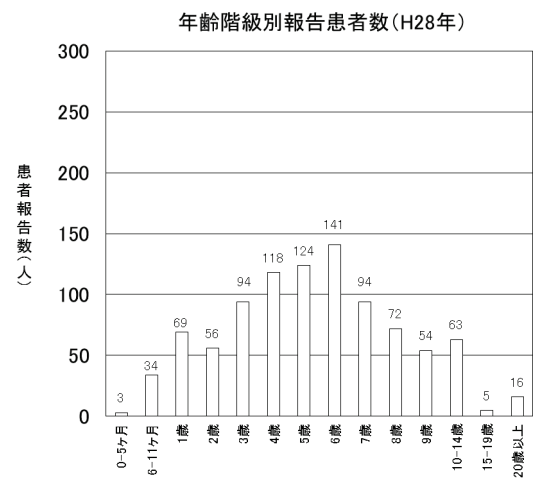
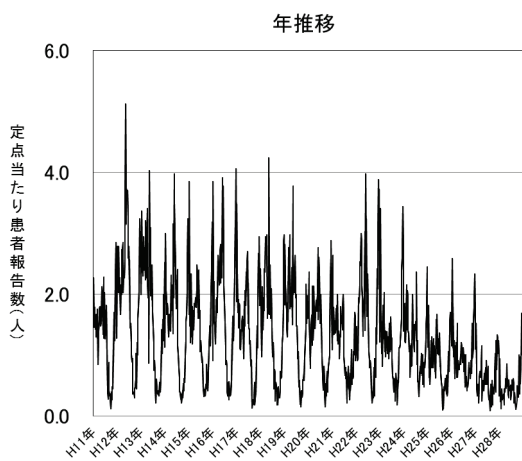
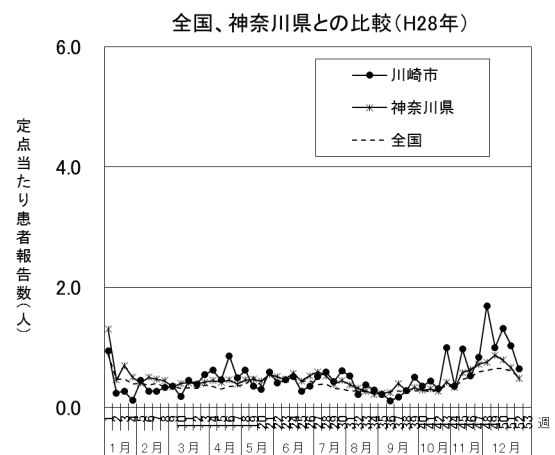
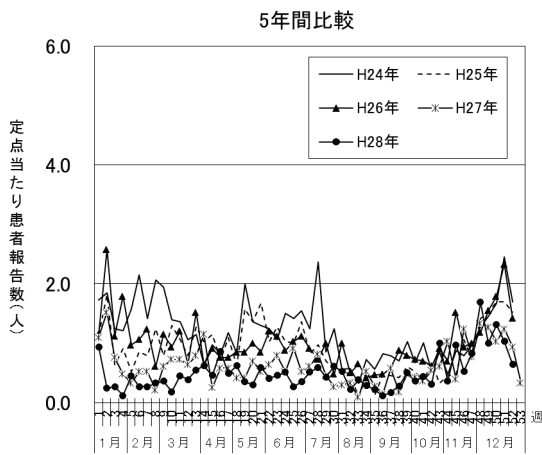
d 感染性胃腸炎

平成 28 年の累積患者報告数は 15,784 人、定点当たり患者報告数は 444.95 人で、前年 (413.57 人) と比べてやや増加した。10 月以降患者報告数が増加し、第 47 週には定点当たり患者報告数が 20.31 人となり、平成 25 年以來 3 年ぶりに流行発生警報基準値 (定点当たり 20.00 人) を超えた。流行のピークは第 50 週の定点当たり 25.42 人であった。年齢階級別では 1 歳が最も多く、5 歳以下が全体の 63.3% を占めた。



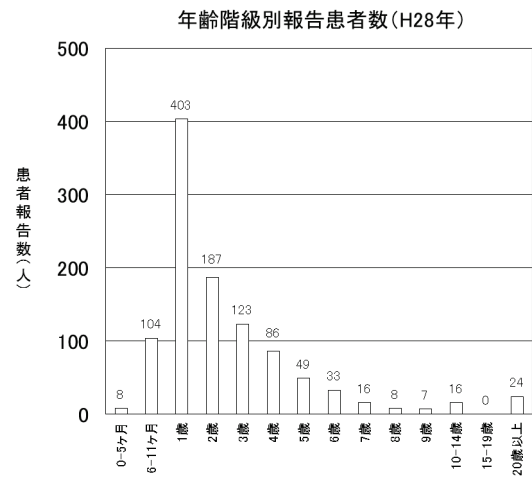
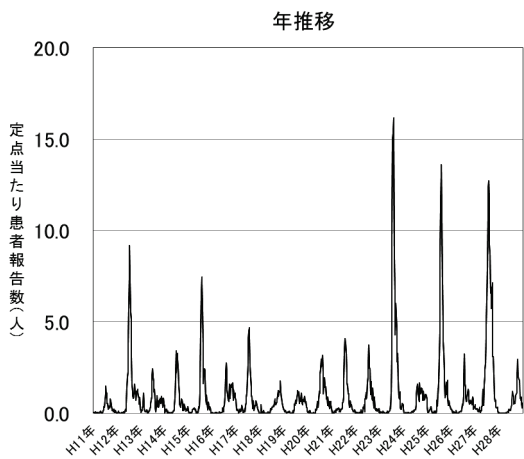
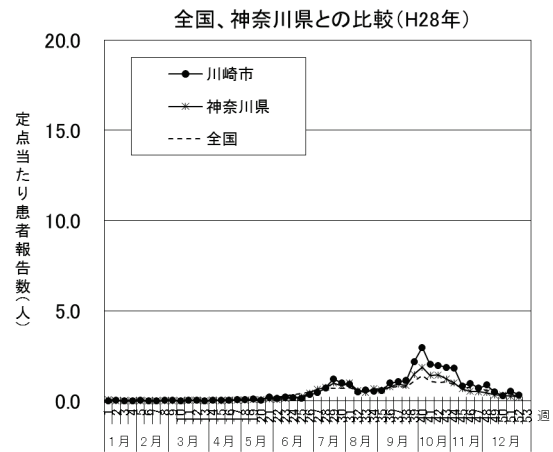
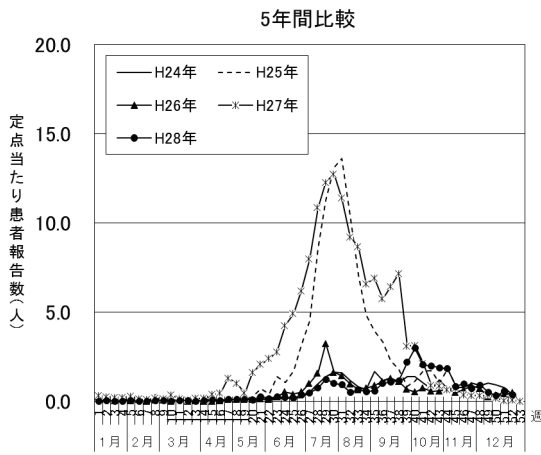
e 水痘

平成 28 年の累積患者報告数は 943 人、定点当たり患者報告数は 26.42 人で、前年（33.50 人）と比べて減少した。第 48 週に高津区において地域流行がみられ、定点当たり患者報告数の最大値（1.69 人）となったが、年間を通して例年よりかなり低いレベルで推移した。平成 26 年 10 月 1 日から、小児に対する水痘の定期予防接種が導入された影響が示唆される。年齢階級別では 6 歳が最も多く、3-7 歳が全体の 60.6% を占めた。



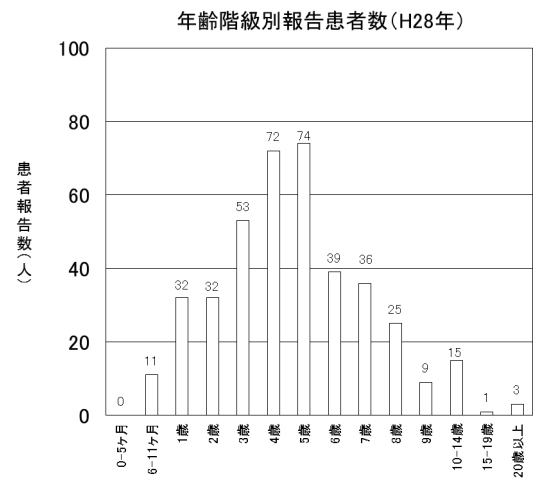
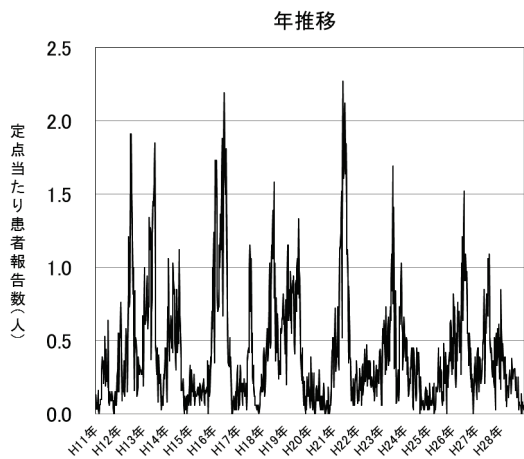
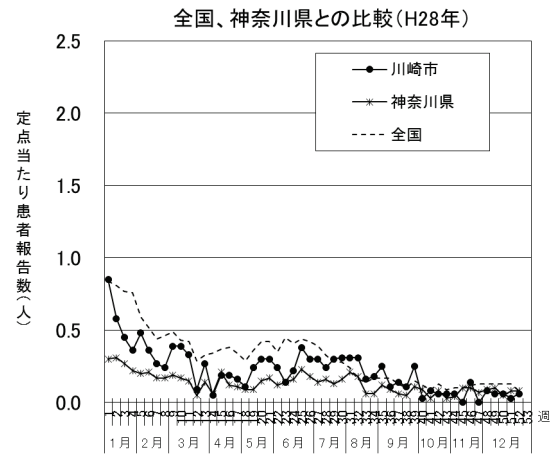
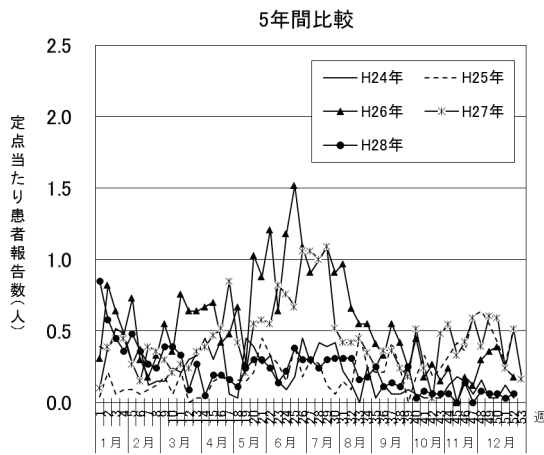
f 手足口病

平成 28 年の累積患者報告数は 1,064 人、定点当たり患者報告数は 29.62 人で、前年 (149.04 人) と比べて大幅に減少した。定点当たり患者報告数の最大値は第 40 週の 2.97 人であった。年齢階級別では 1 歳が最も多く、5 歳未満が全体の 85.6% を占めた。



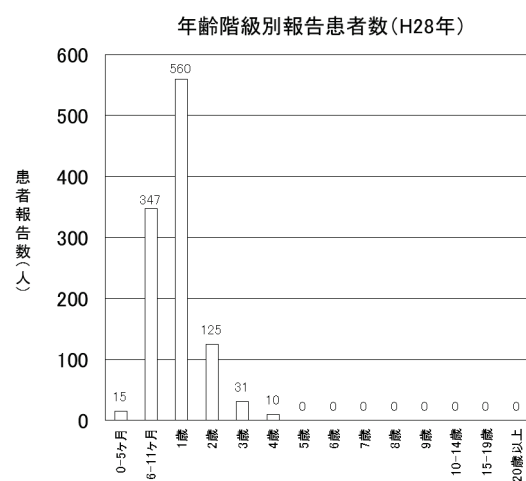
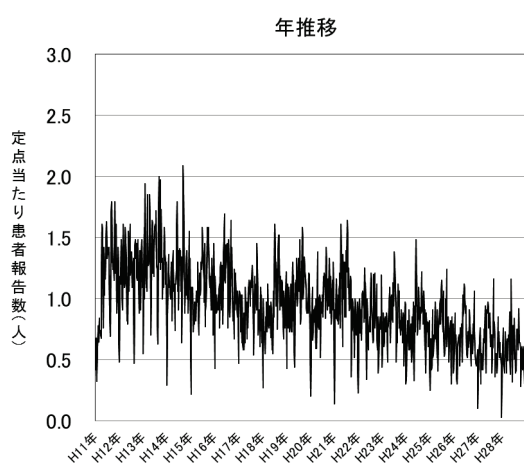
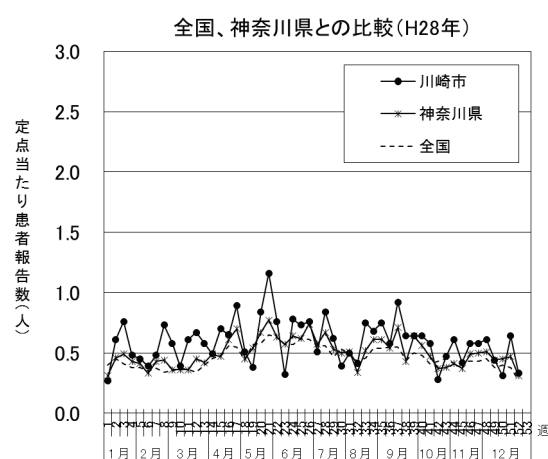
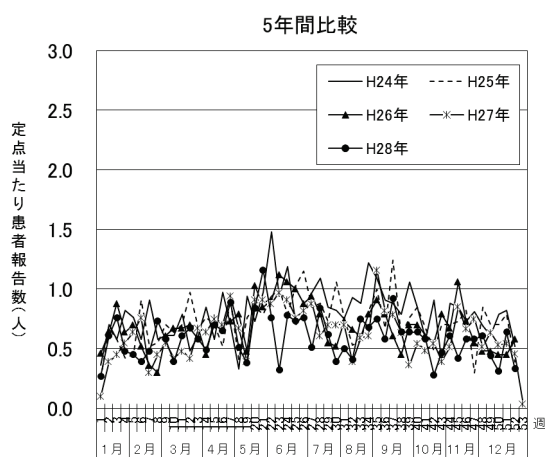
g 伝染性紅斑

平成 28 年の累積患者報告数は 402 人、定点当たり患者報告数は 11.57 人で、前年（24.16 人）に比べて減少した。年間を通して例年よりかなり低いレベルで推移し、定点当たり患者報告数の最大値は第 1 週の 0.85 人であった。年齢階級別では 5 歳が最も多く、3-5 歳が全体の 49.5% を占めた。



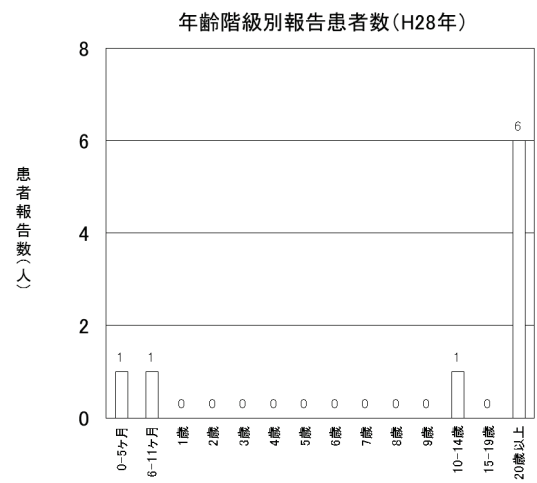
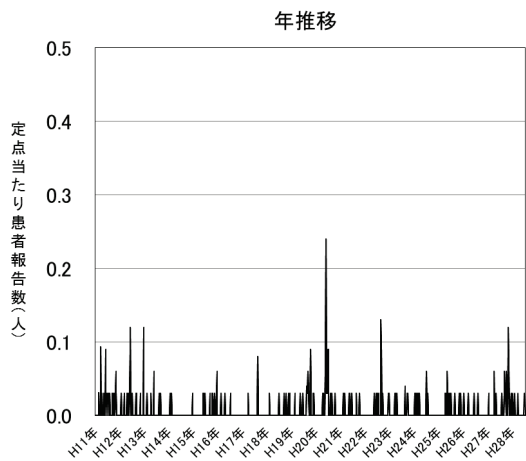
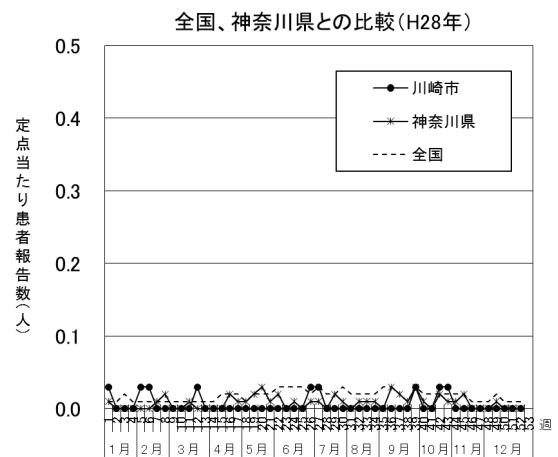
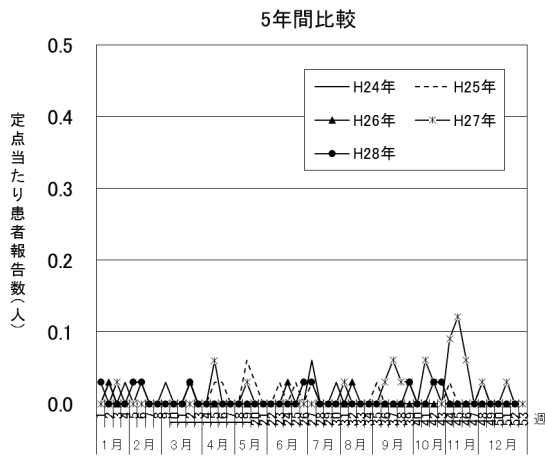
h 突発性発しん

平成 28 年の累積患者報告数は 1,088 人、定点当たり患者報告数は 30.66 人で、前年（32.84 人）と比べてやや減少した。年間を通して目立った流行は認められず、ほぼ例年並みのレベルで推移し、定点当たり患者報告数の最大値は第 21 週の 1.16 人であった。年齢階級別では 1 歳が最も多く、1 歳以下が全体の 84.7% を占めた。



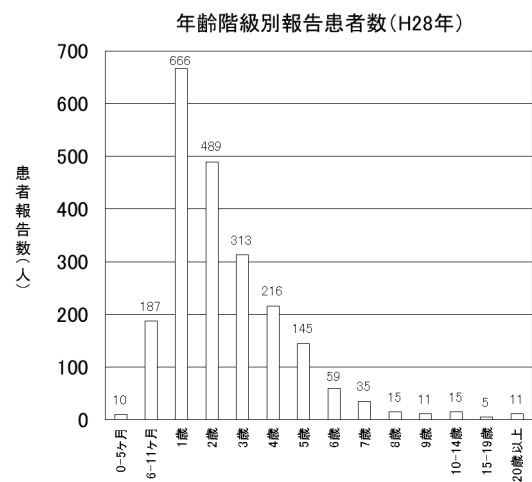
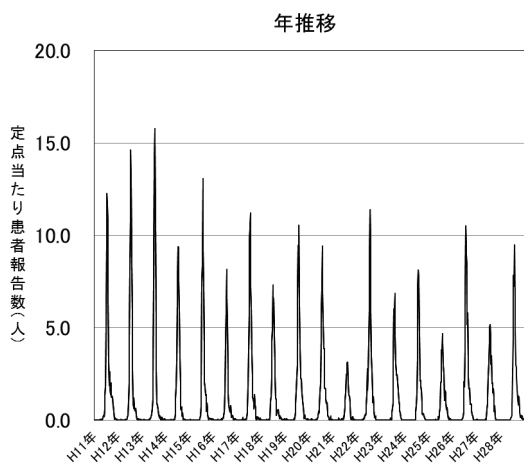
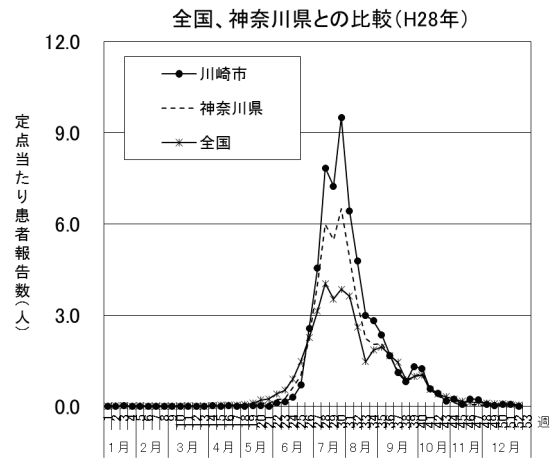
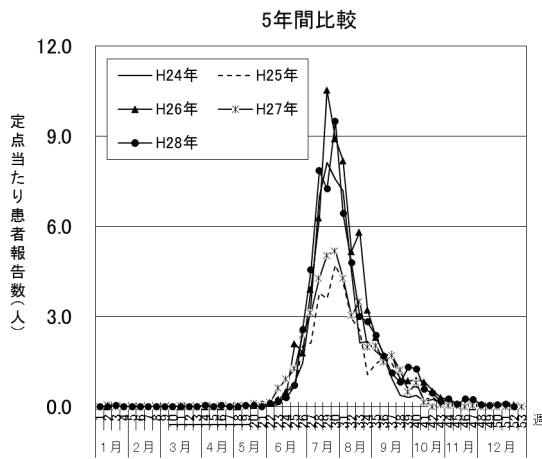
i 百日咳

平成 28 年の累積患者報告数は 9 人、定点当たり患者報告数は 0.27 人で、前年（0.72 人）と比べて大幅に減少した。年齢階級別では 20 歳以上が最も多く、全体の 66.7%を占めた。



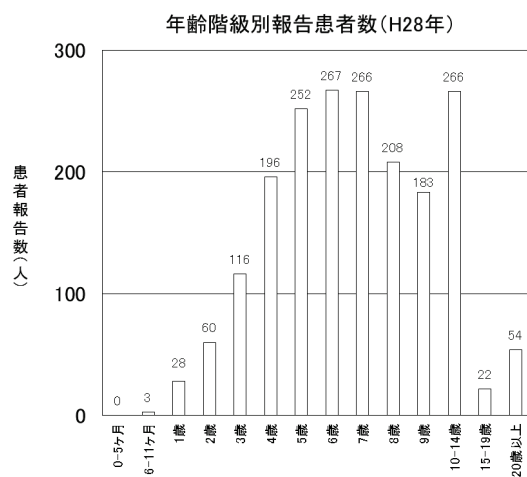
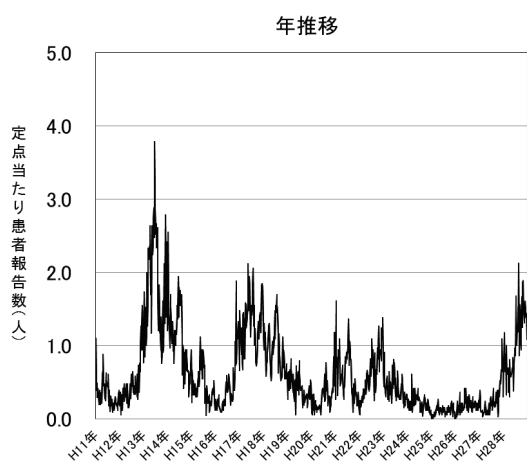
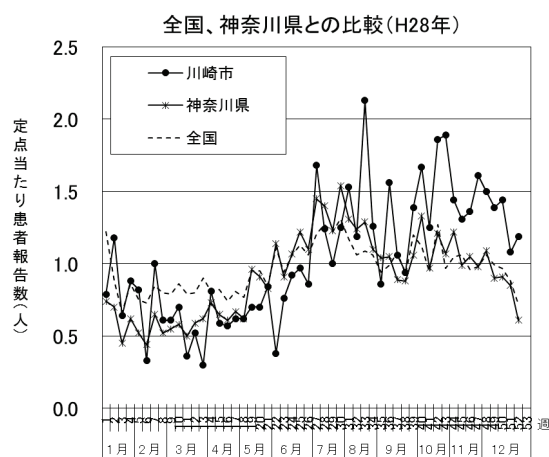
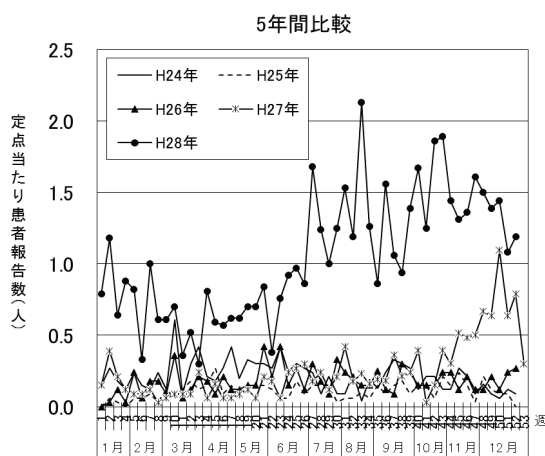
j ヘルパンギーナ

平成 28 年の累積患者報告数は 2,177 人、定点当たり患者報告数は 60.86 人で、前年（43.99 人）と比べて増加した。例年と同様、夏期に一峰性の流行を示し、定点当たり患者報告数の最大値は第 30 週の 9.50 人であった。年齢階級別では 1 歳が最も多く、1-4 歳が全体の 77.4%を占めた。



k 流行性耳下腺炎

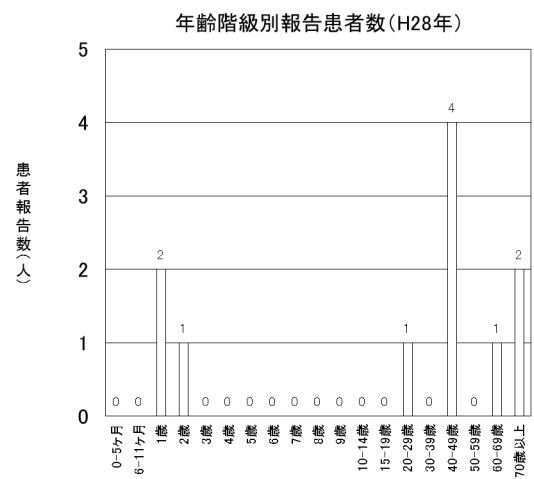
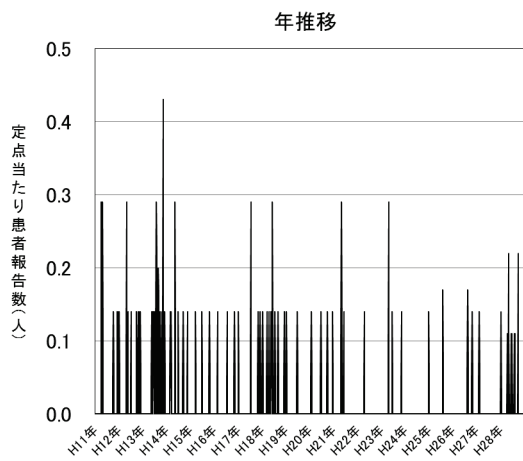
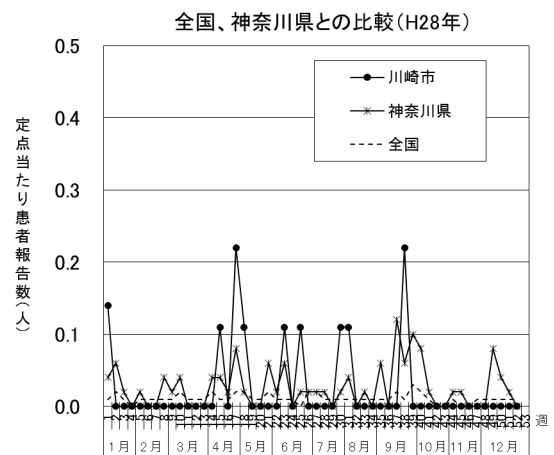
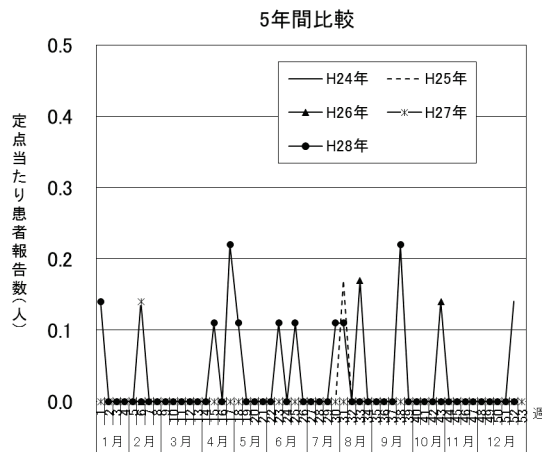
平成 28 年の累積患者報告数は 1,921 人、定点当たり患者報告数は 54.16 人で、前年 (13.43 人) と比べて大幅に増加した。年当初から例年よりかなり高いレベルで推移し、定点当たり患者報告数の最大値は第 33 週の 2.13 人であった。年齢階級別では 6 歳が最も多く、4-8 歳が全体の 61.9% を占めた。



(ウ) 眼科定点把握対象疾患

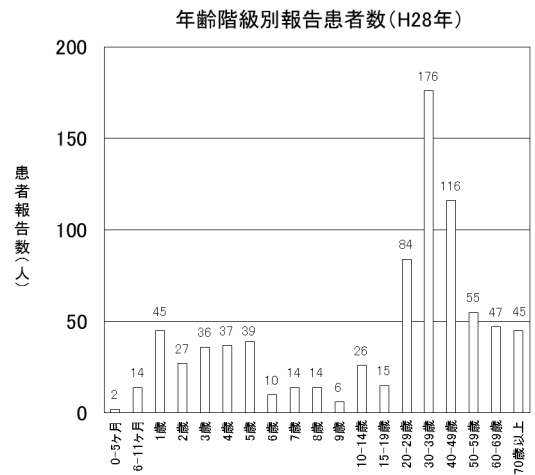
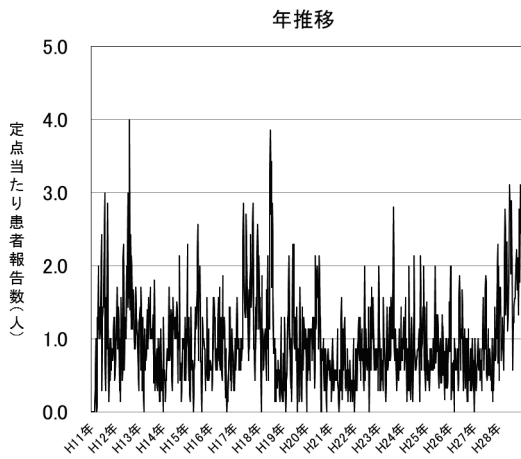
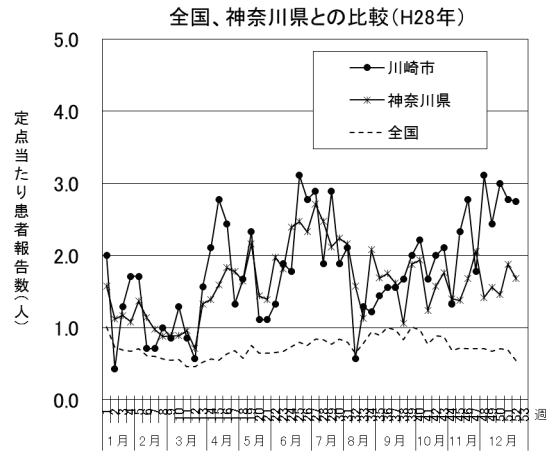
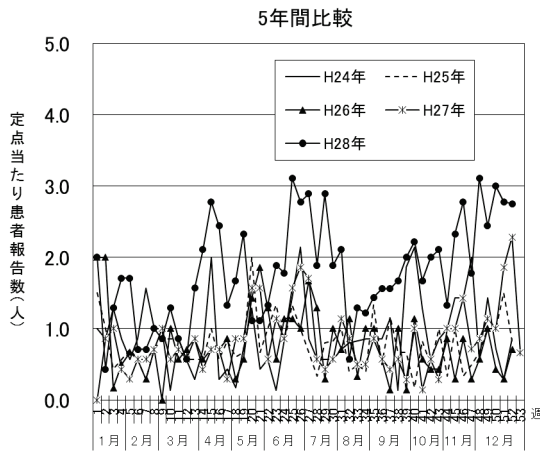
a 急性出血性結膜炎

平成 28 年の累積患者報告数は 11 人、定点当たり患者報告数は 1.24 人で、前年 (0.14 人) と比べて大幅に増加した。年齢階級別では 40-49 歳が最も多く、全体の 36.4% を占めた。



b 流行性角結膜炎

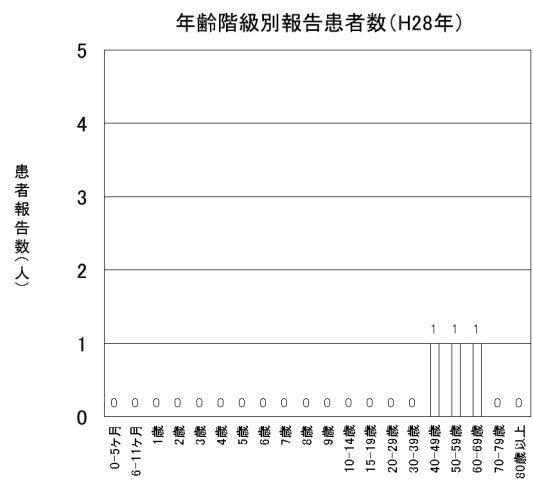
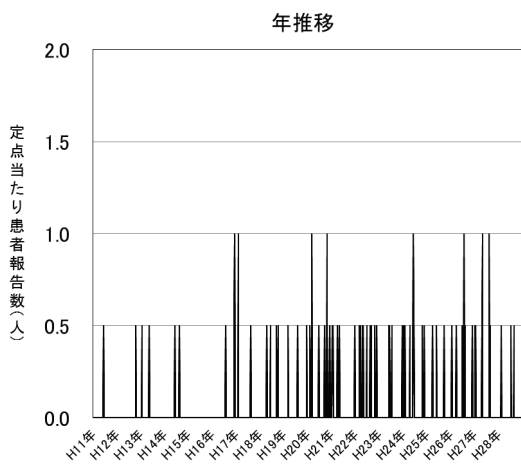
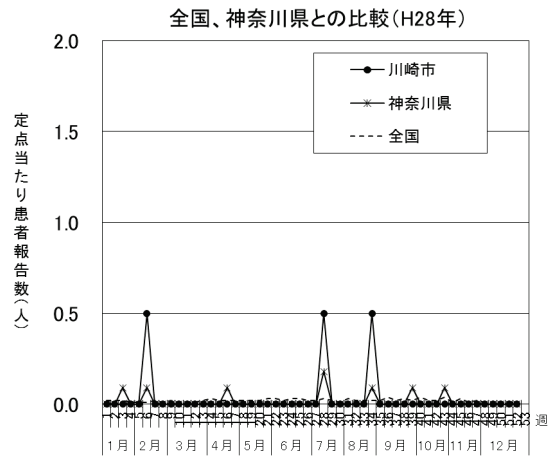
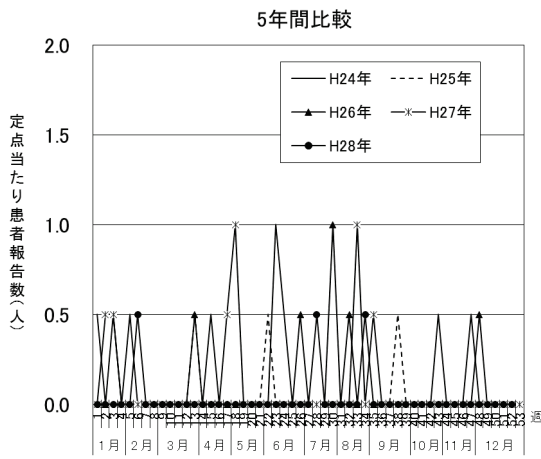
平成 28 年の累積患者報告数は 808 人、定点当たり患者報告数は 93.76 人で、前年（44.00 人）と比べて大幅に増加した。3 月下旬以降に報告数が増加し、例年よりかなり高いレベルで推移した。定点当たり患者報告数の最大値は第 25 週、第 48 週の 3.11 人であった。年齢階級別では、10 歳未満の割合が全体の 30.2%と最も多く、次いで 30-39 歳の割合が全体の 21.8%を占めた。



(エ) 基幹定点把握対象疾患

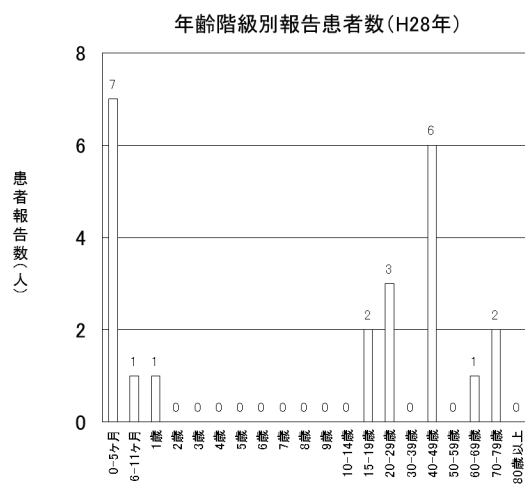
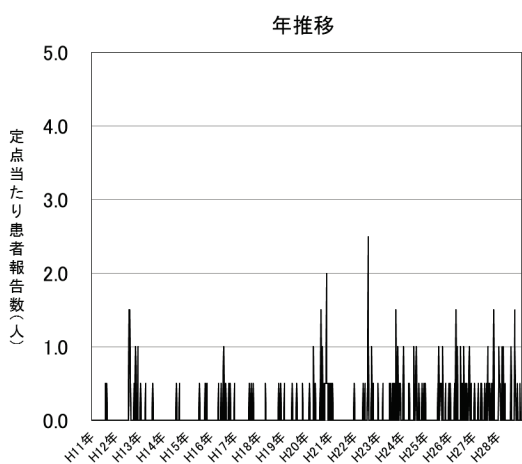
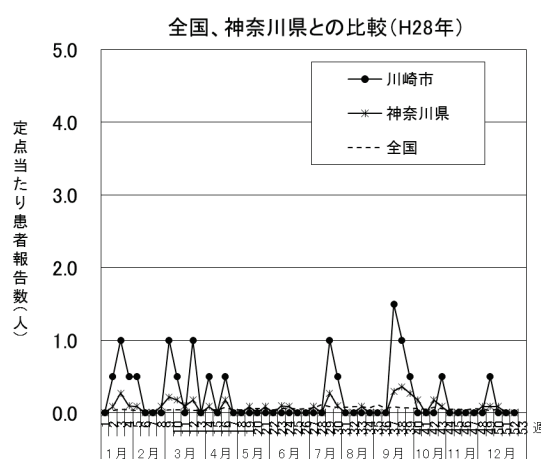
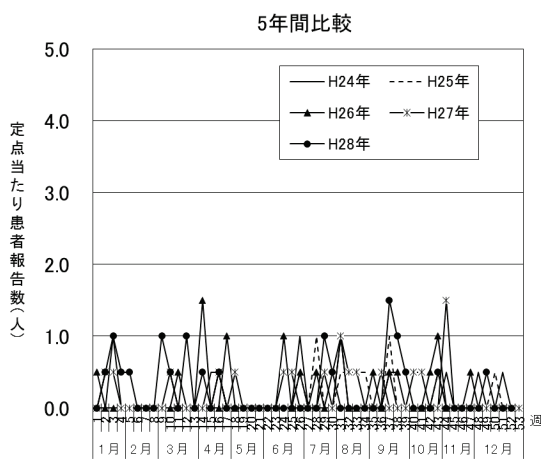
a 細菌性髄膜炎

平成 28 年の累積患者報告数は 3 人、定点当たり患者報告数は 1.50 人で、前年（4.00 人）と比べて減少した。月別では、2 月、7 月及び 8 月に各 1 人の報告があった。年齢階級別では、40-49 歳、50-59 歳及び 60-69 歳から各 1 人の報告があった。



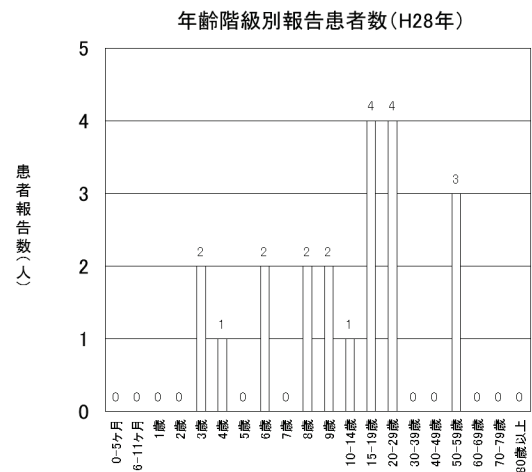
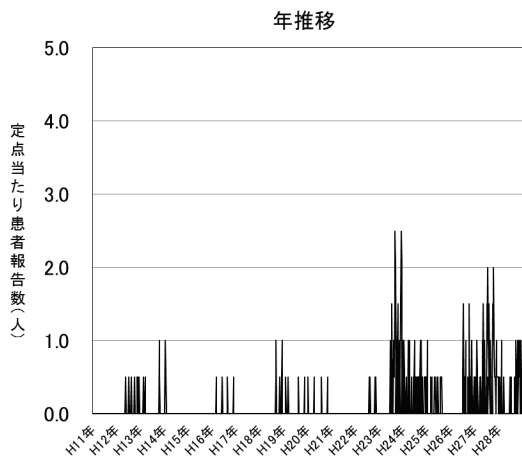
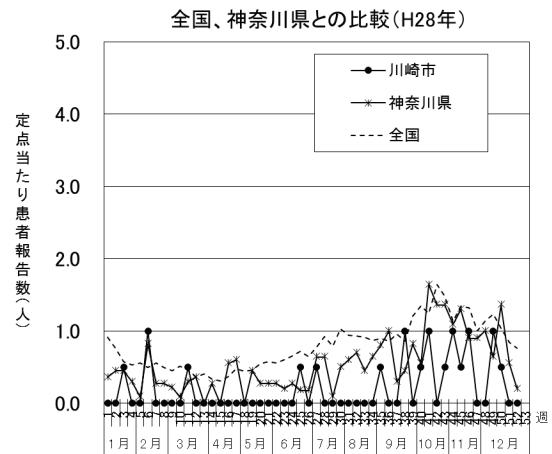
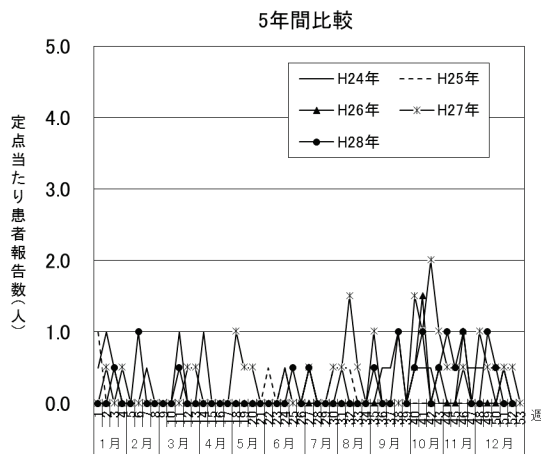
b 無菌性髄膜炎

平成 28 年の累積患者報告数は 23 人、定点当たり患者報告数は 11.50 人で、前年 (9.50 人) と比べてやや増加した。月別では、1 月、3 月及び 9 月に報告数が多かった。年齢階級別では、0-5 ヶ月が最も多く、全体の 30.4% を占めた。

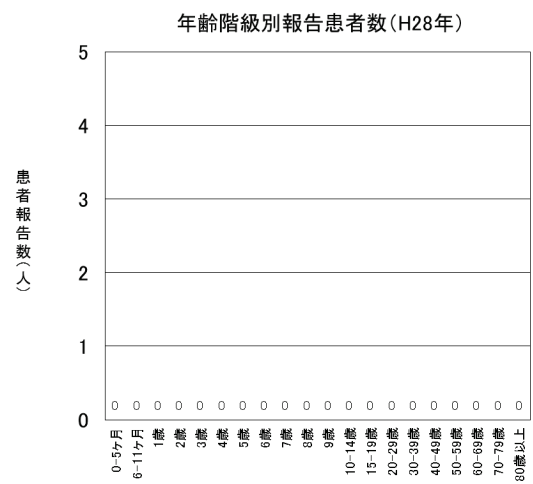
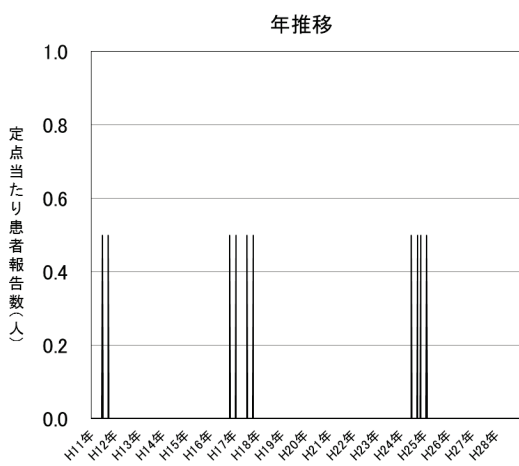
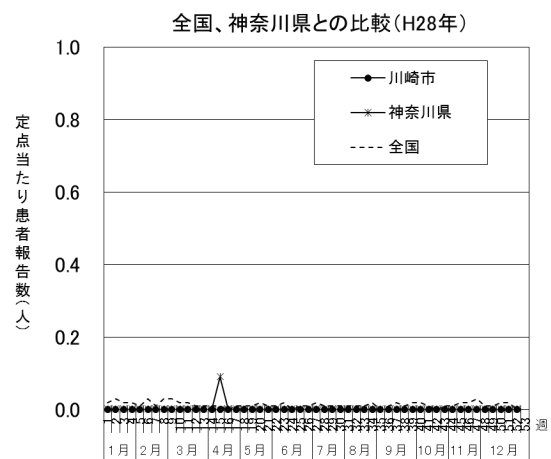
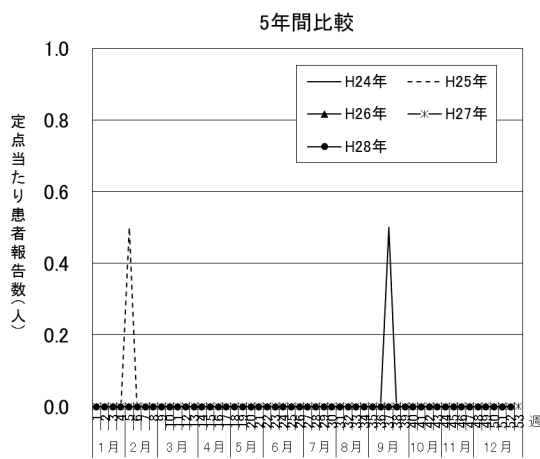


c マイコプラズマ肺炎

平成28年の累積患者報告数は21人、定点当たり患者報告数は10.50人で、前年(18.50人)と比べて減少した。月別では、9月以降報告数が増加した。年齢階級別では、10歳未満の割合が多く、全体の42.9%を占めた。

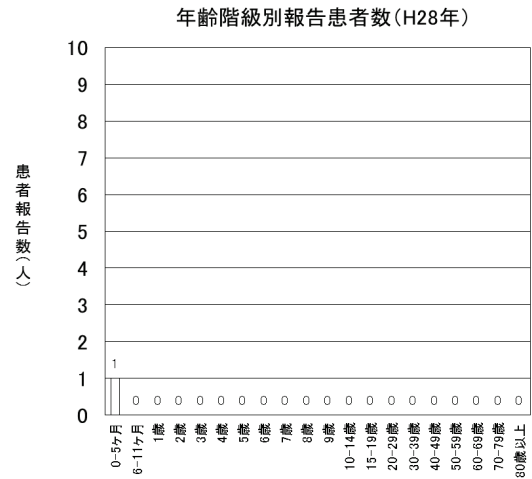
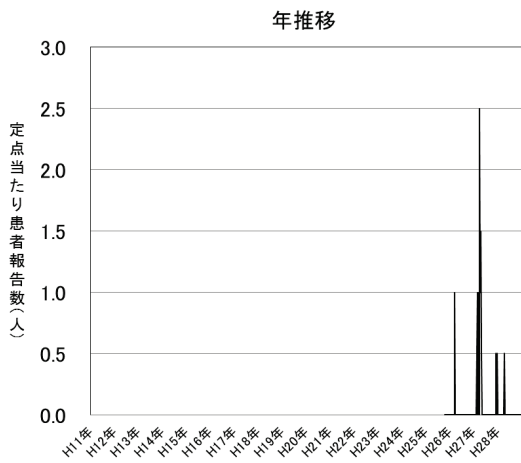
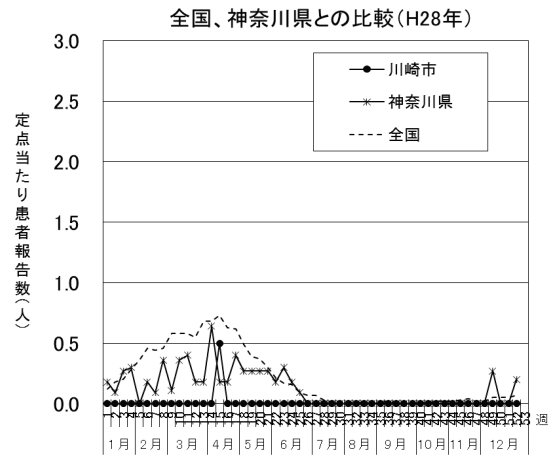
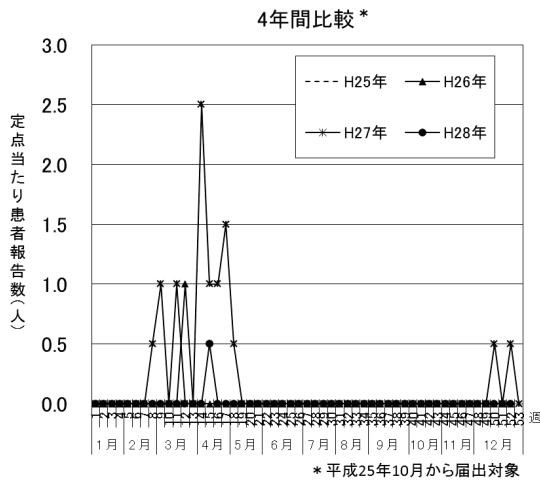


- d クラミジア肺炎（オウム病を除く。）
平成 28 年は報告がなかった。



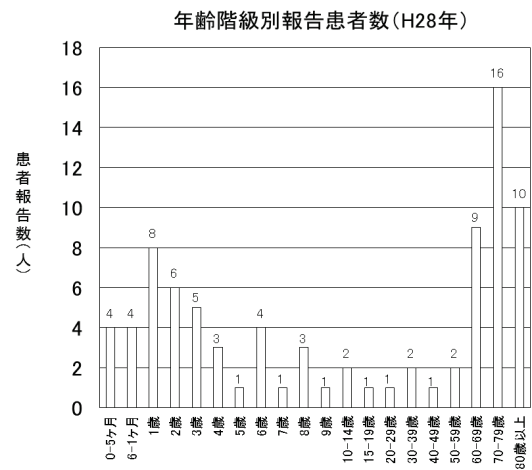
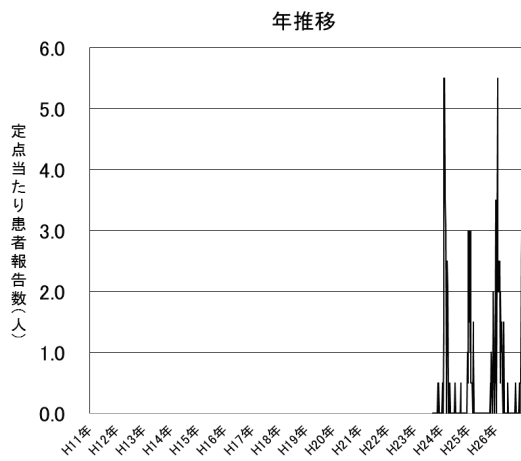
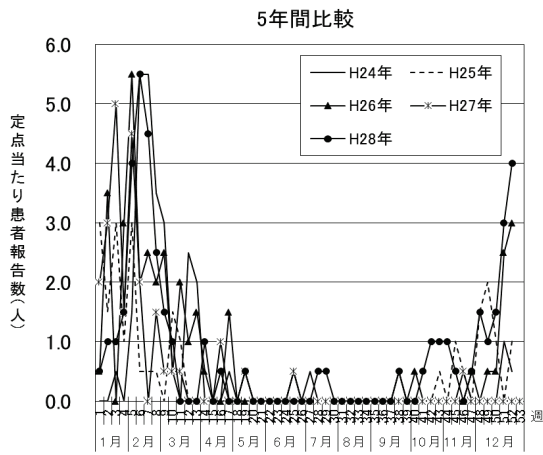
e 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）

平成 28 年の累積患者報告数は 1 人、定点当たり患者報告数は 0.50 人で、前年（10.00 人）と比べて大幅に減少した。4 月に 1 件の報告があり、年齢階級は 0-5 ヶ月であった。



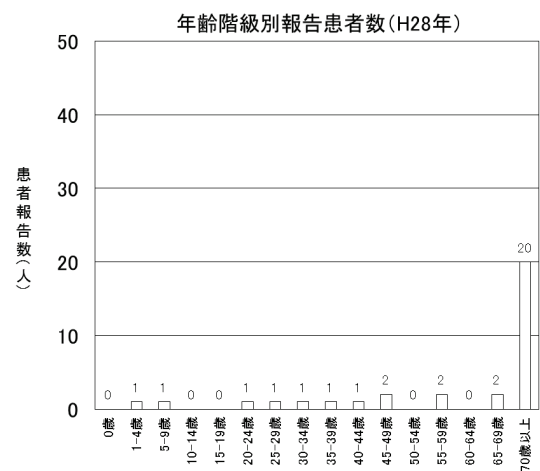
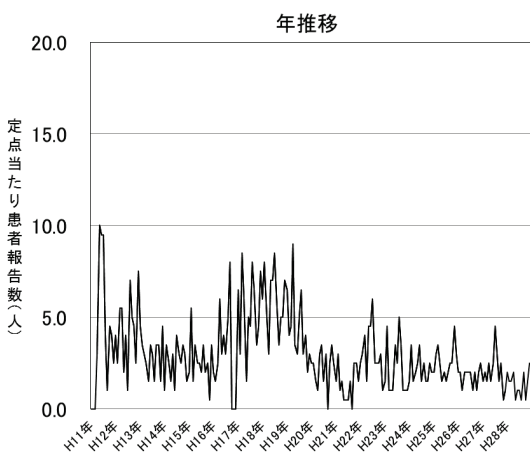
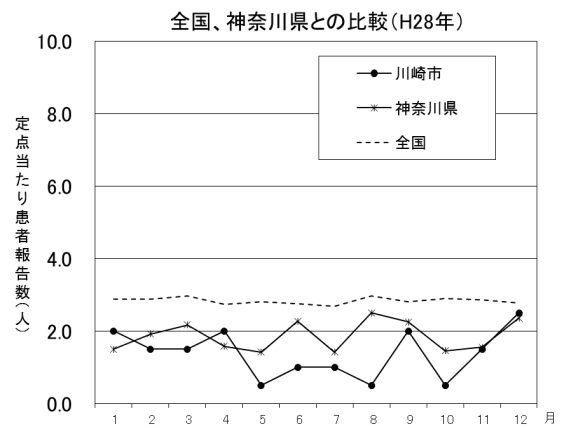
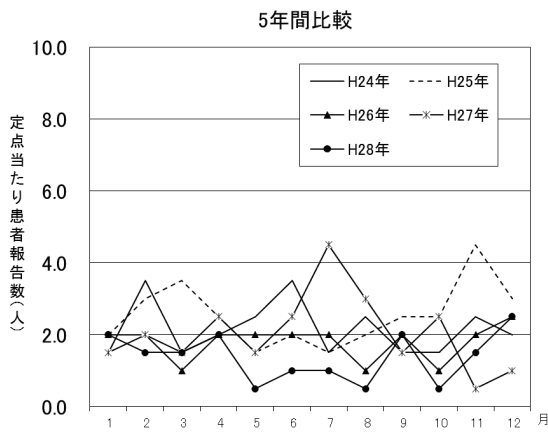
f インフルエンザ入院サーベイランス

平成28年の累積患者報告数は84人、定点当たり患者報告数は42.00人で、前年(23.50人)と比べて増加した。月別では、2月が33件と最多の報告数であった。年齢階級別では、70-79歳が最も多く、全体の19.0%を占めた。



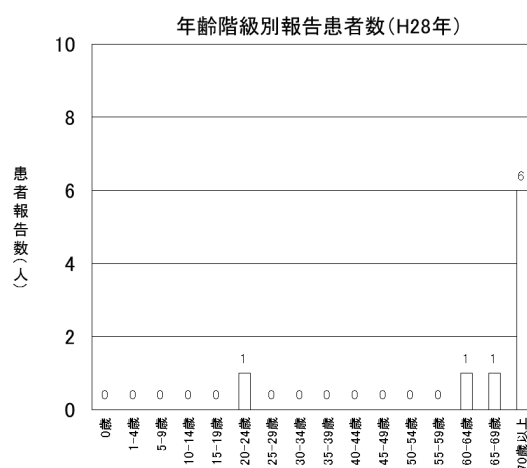
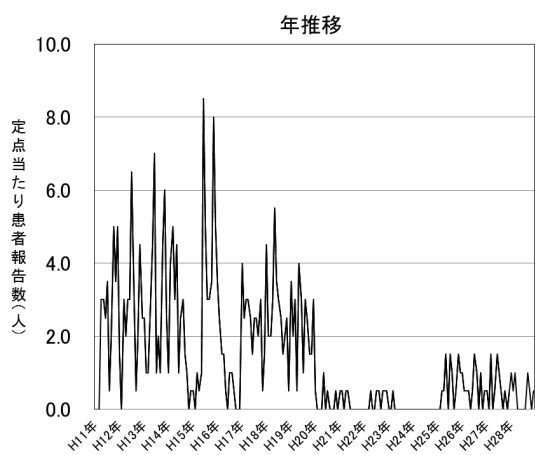
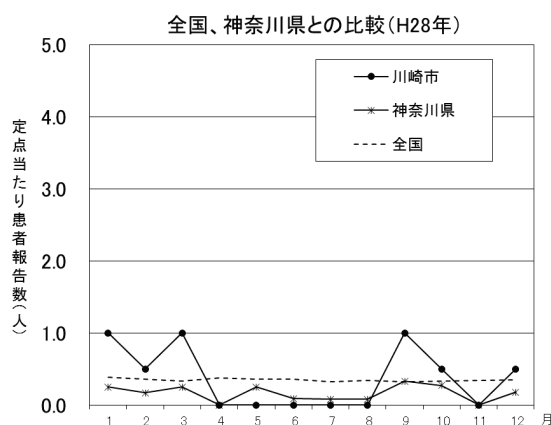
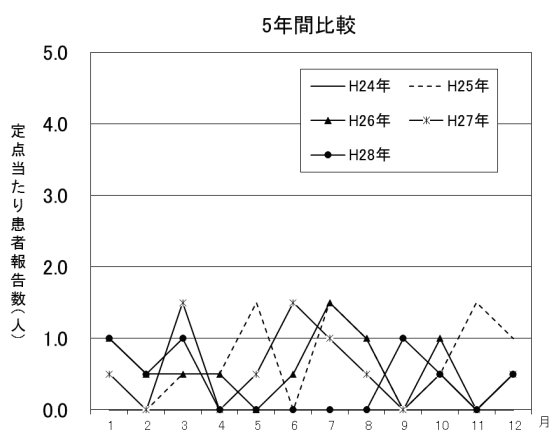
g メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

平成28年の累積患者報告数は33人、定点当たり患者報告数は16.50人で、前年(24.50人)と比べて減少した。定点当たり患者報告数の最大値は12月の2.50人であった。年齢階級別では、70歳以上が最も多く全体の60.6%を占めた。



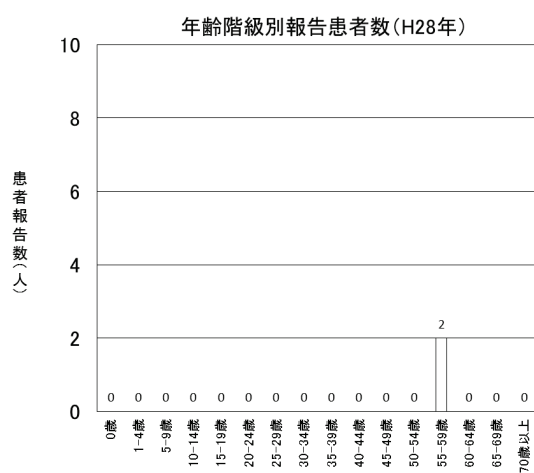
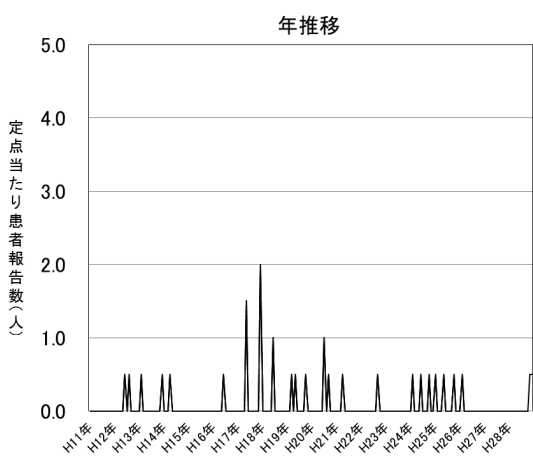
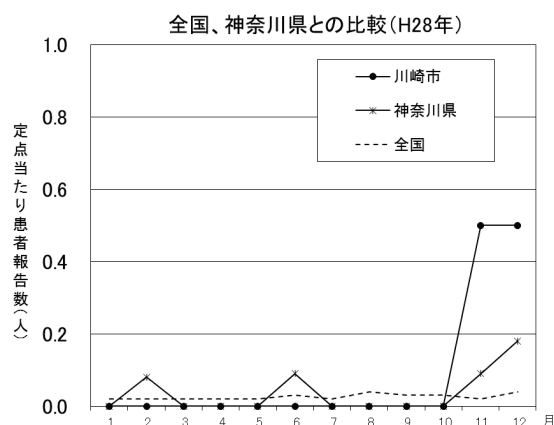
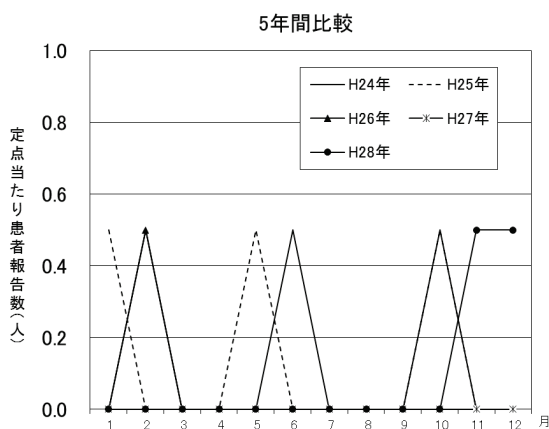
h ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

平成 28 年の累積患者報告数は 9 人、定点当たり患者報告数は 4.50 人で、前年（6.50 人）と比べて減少した。定点当たり患者報告数の最大値は 1 月、3 月及び 9 月の 1.00 人であった。年齢階級別では、70 歳以上が最も多く全体の 66.7%を占めた。



i 薬剤耐性緑膿菌感染症

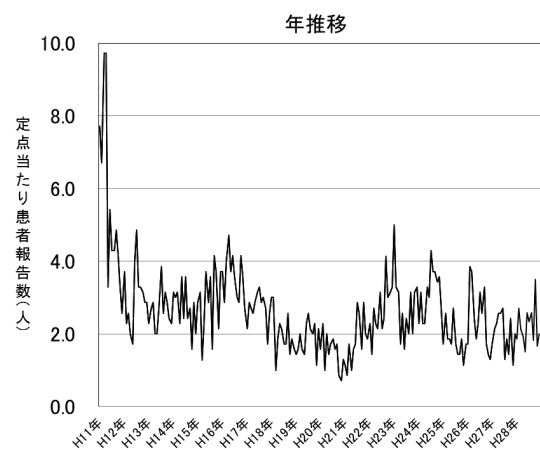
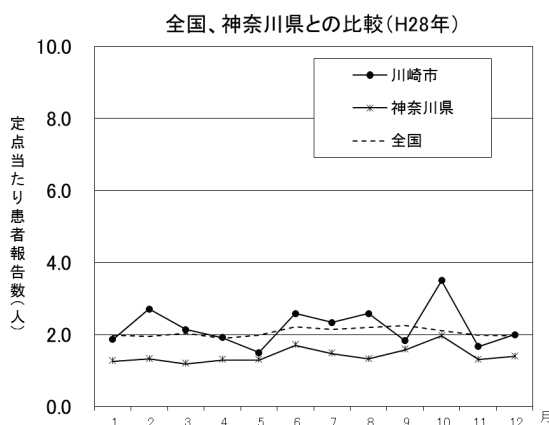
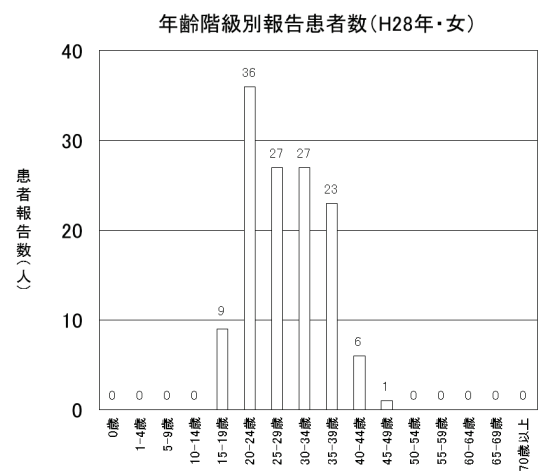
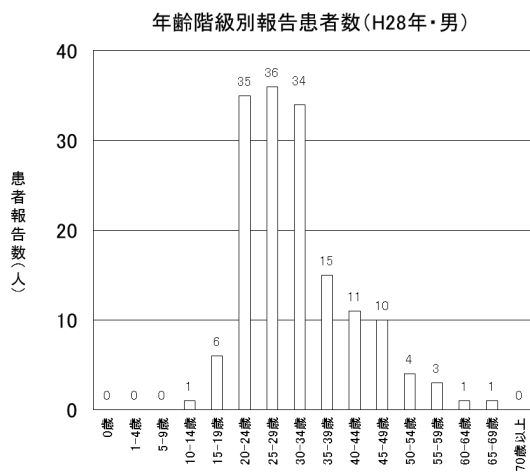
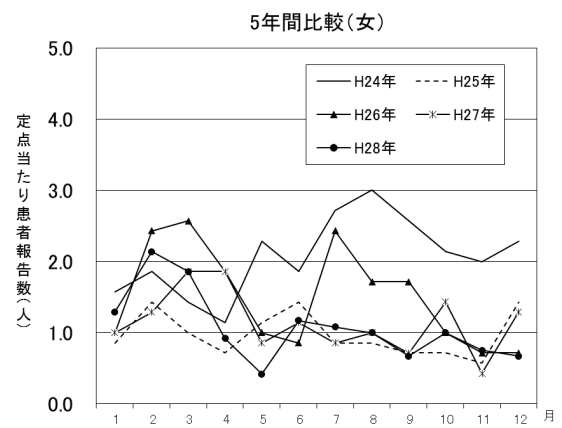
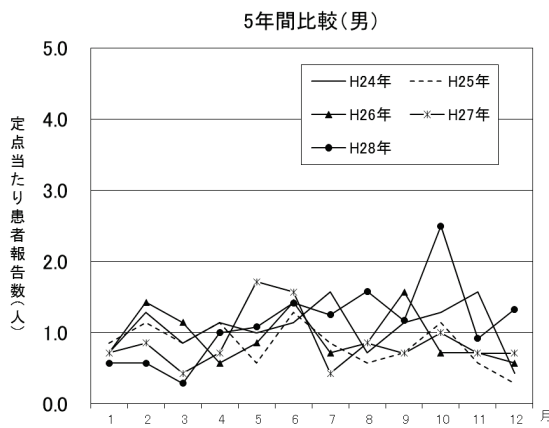
平成 28 年の累積患者報告数は 2 人、定点当たり患者報告数は 1.00 人で、前年（0.00 人）と比べて増加した。月別では、11 月及び 12 月に各 1 人の報告があった。年齢階級別では、全て 55-59 歳であった。



(オ) 性感染症定点把握対象疾患

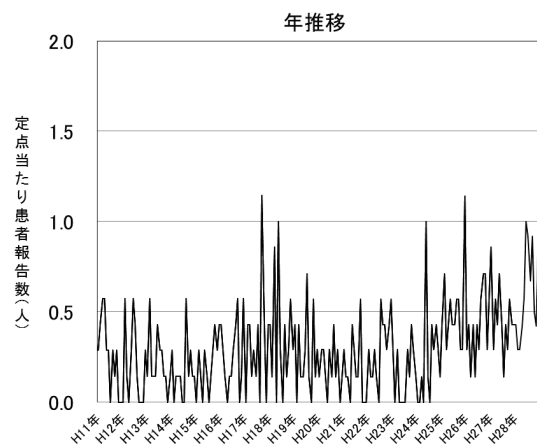
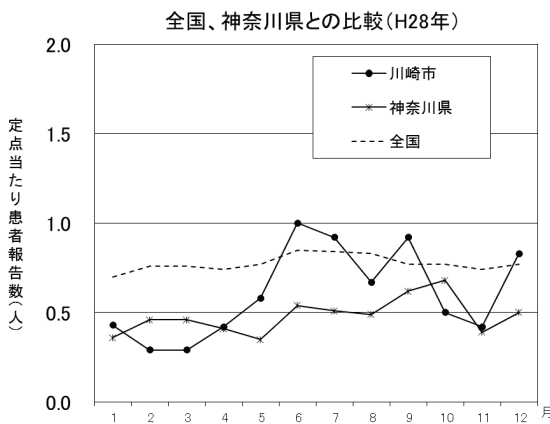
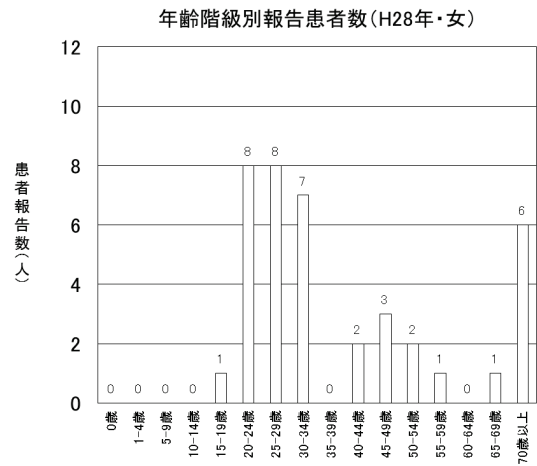
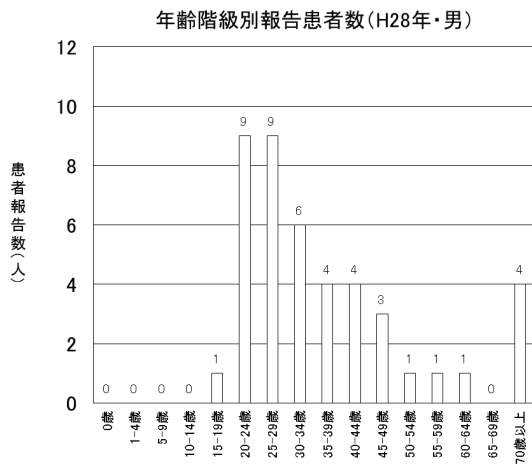
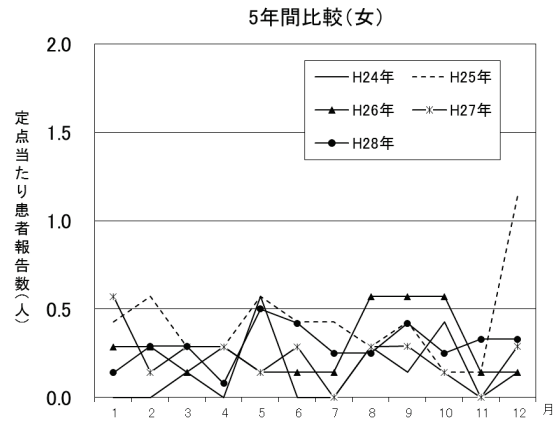
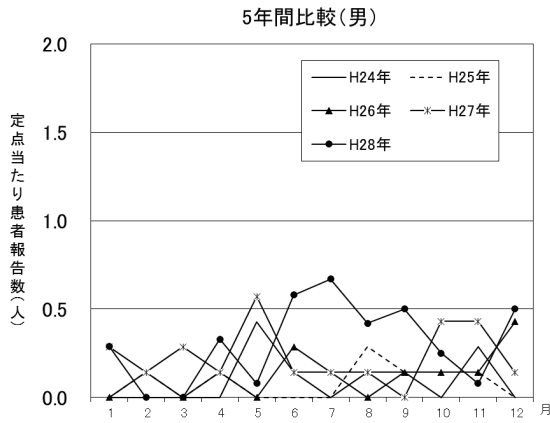
a 性器クラミジア感染症

平成 28 年の累積患者報告数は男 157 人、女 129 人の計 286 人、定点当たり患者報告数は 26.63 人で、前年（24.14 人）と比べてやや増加した。性別では男性が多く、男性における定点当たり報告数の最大値は 10 月の 2.50 人であった。性別年齢階級別では、男は 25-29 歳、女は 20-24 歳が最も多かった。



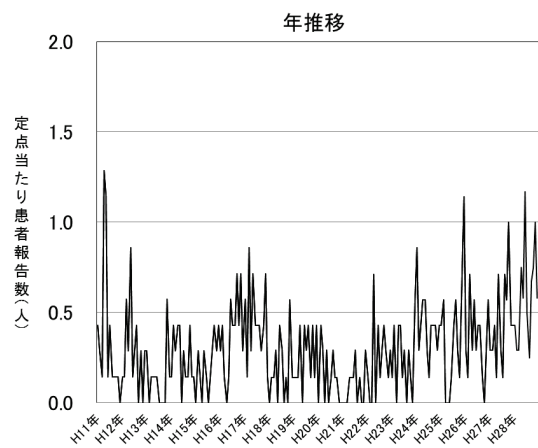
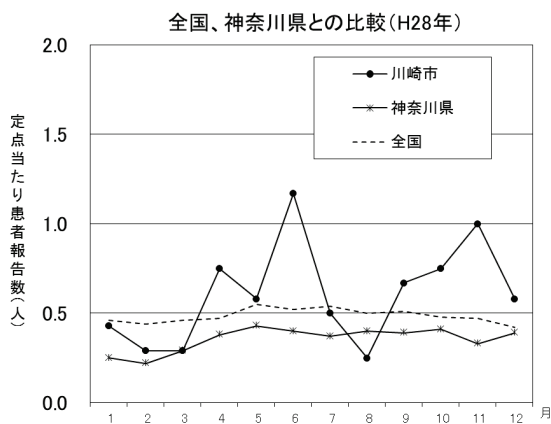
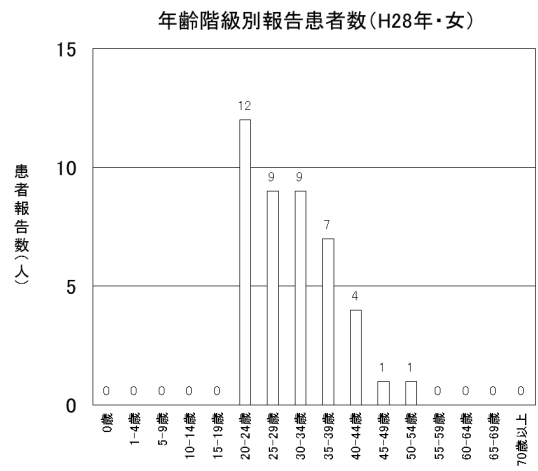
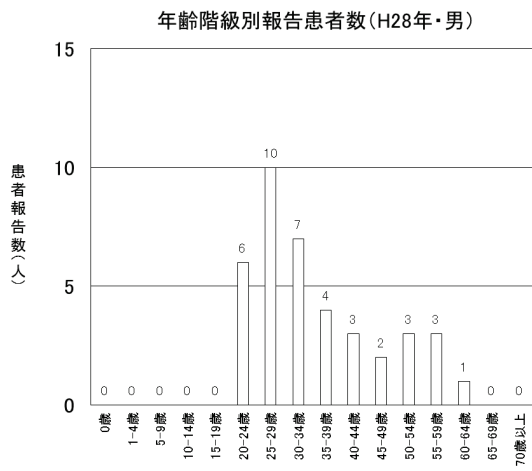
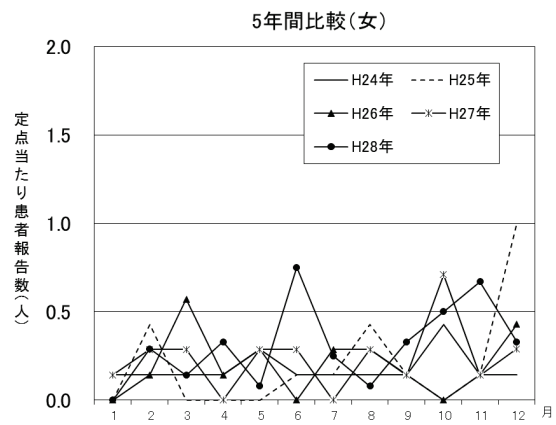
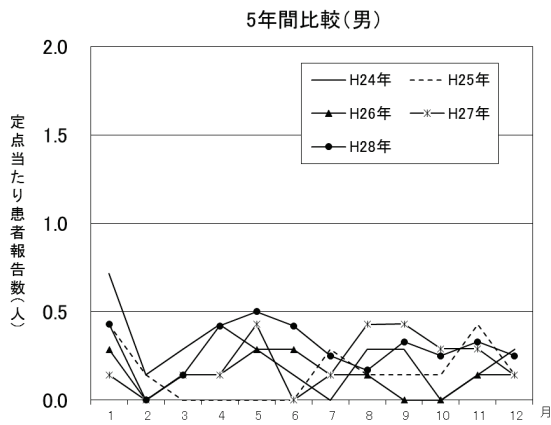
b 性器ヘルペスウイルス感染症

平成 28 年の累積患者報告数は男 43 人、女 39 人の計 82 人、定点当たり患者報告数は 7.25 人で、前年 (5.57 人) と比べて増加した。定点当たり報告数の最大値は 6 月の 1.00 人であった。性別年齢階級別では、男女ともに 20-24 歳及び 25-29 歳が最も多かった。



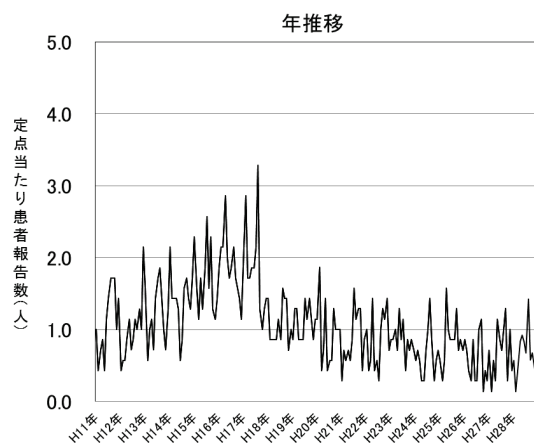
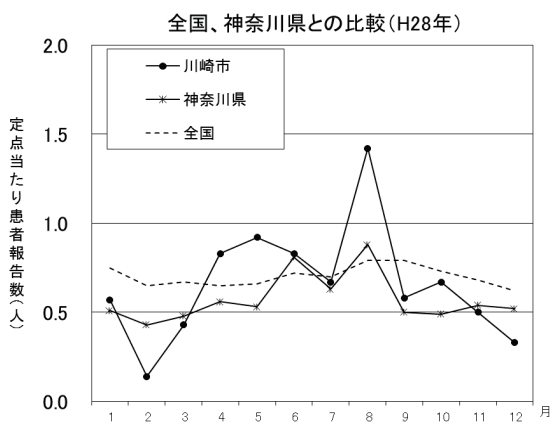
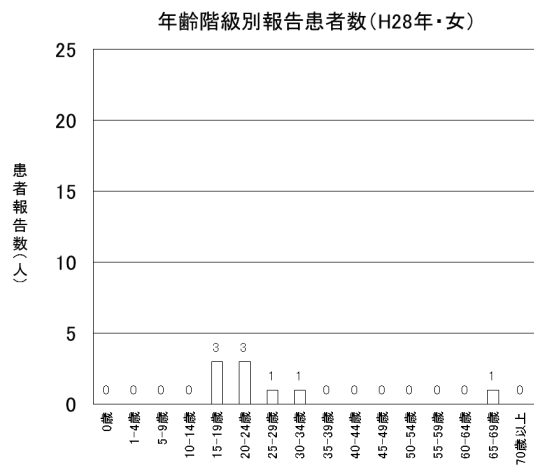
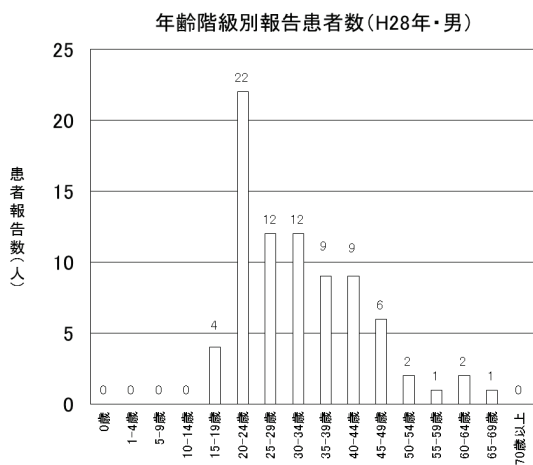
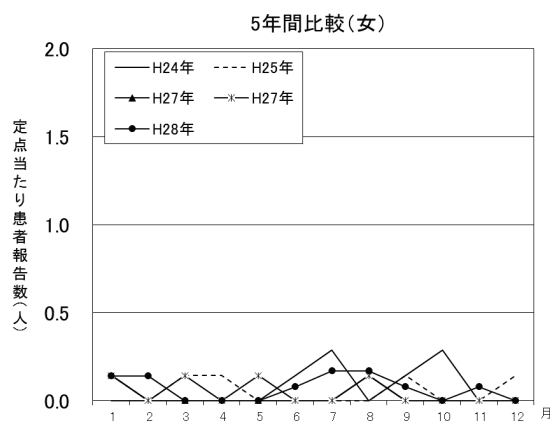
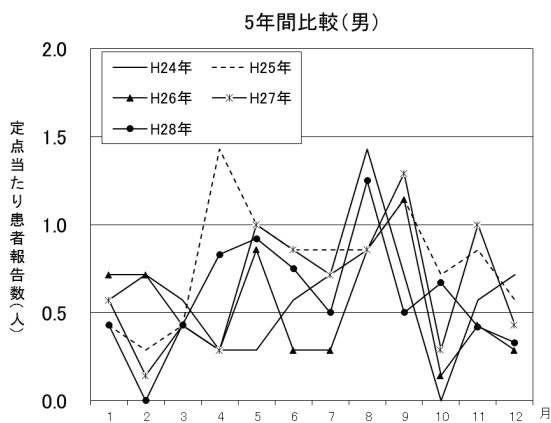
c 尖形コンジローマ

平成 28 年の累積患者報告数は男 39 人、女 43 人の計 82 人、定点当たり患者報告数は 7.25 人で、前年 (5.43 人) と比べて増加した。定点当たり報告数の最大値は 6 月の 1.17 人で同月は特に女性が多かった。性別年齢階級別では、男は 25-29 歳、女は 20-24 歳が最も多かった。



d 淋菌感染症

平成 28 年の累積患者報告数は男 80 人、女 9 人の計 89 人、定点当たり患者報告数は 7.89 人で、前年 (8.43 人) と比べてやや減少した。性別では男性が多く、男性における定点当たり報告数の最大値は 8 月の 1.25 人であった。性別年齢階級別では、男は 20-24 歳が最も多く、女は 15-19 歳及び 20-24 歳が同数で最も多かった。



- ウ 感染症法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症
平成 28 年は、疑似症の届出はなかった。

表 7 感染症法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症届出数 (件)

症 状	川崎市	全国
摂氏 38 度以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）	—	818
発熱及び発しん又は水疱	—	601

ただし、当該症状が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合及び発熱及び発しんを呈するが感染症法の対象外の感染性疾患であることが明らかな場合を除く。

- エ 獣医師が届出を行う感染症と対象動物
平成 28 年は、獣医師が届出を行う感染症の届出はなかった。

表 8 獣医師が届出を行う感染症届出数 (件)

疾 患 名	対象動物	川崎市	全国
エボラ出血熱	サル	—	—
重症急性呼吸器症候群	イタチアナグマ	—	—
	タヌキ	—	—
	ハクビシン	—	—
ペスト	プレーリードッグ	—	—
マールブルグ病	サル	—	—
細菌性赤痢	サル	—	5
ウエストナイル熱	鳥類	—	—
エキノコックス症	犬	—	1
結核	サル	—	—
鳥インフルエンザ（H5N1 又は H7N9）	鳥類	—	—
中東呼吸器症候群	ヒトコブラクダ	—	—

- オ 集団施設における感染症発生情報

学校保健安全法に規定される対象疾患により出席停止となった患者数について、小学校、中学校からの報告数を集計することにより、集団施設における感染症発生状況を解析し、関係機関及び市民等へ発信している。なお、保育園については、学校欠席者情報収集システム（保育園サーベイランス含む）から収集した情報を集計している。

表9 集団施設における感染症発生情報

(人)

		総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総数	総数	44,408	4,804	15,733	6,871	2,230	1,622	1,736	1,557	1,043	1,341	1,695	2,377	3,399
	保育園	12,086	1,258	2,928	1,089	659	528	659	875	827	672	640	840	1,111
	小学校	28,153	3,077	11,299	4,924	1,385	1,021	1,031	637	191	611	947	1,366	1,664
	中学校	4,169	469	1,506	858	186	73	46	45	25	58	108	171	624
百日咳	総数	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	保育園	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小学校	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	中学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
インフルエンザ様疾患	総数	27,394	3,485	14,507	5,877	1,094	138	13	3	-	71	90	457	1,659
	保育園	4,596	756	2,456	707	163	6	3	-	-	18	24	96	367
	小学校	19,234	2,302	10,600	4,342	781	98	7	1	-	44	43	278	738
	中学校	3,564	427	1,451	828	150	34	3	2	-	9	23	83	554
麻疹	総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	保育園	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	総数	4,503	371	293	301	186	261	375	375	298	417	623	584	419
	保育園	933	57	66	67	48	53	49	84	160	142	116	58	33
	小学校	3,372	297	213	227	124	194	314	282	122	258	484	494	363
	中学校	198	17	14	7	14	14	12	9	16	17	23	32	23
水痘	総数	1,923	167	98	84	177	216	170	98	38	73	150	347	305
	保育園	627	41	41	47	82	32	32	26	21	20	37	142	106
	小学校	1,262	122	55	35	95	176	136	71	16	52	108	201	195
	中学校	34	4	2	2	-	8	2	1	1	1	5	4	4
風しん	総数	2	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	保育園	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	小学校	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	総数	685	26	29	26	39	57	84	68	65	74	68	80	69
	保育園	358	14	12	15	11	22	42	43	57	37	26	36	43
	小学校	295	12	15	8	25	34	39	19	6	36	39	41	21
	中学校	32	-	2	3	3	1	3	6	2	1	3	3	5
急性出血性結膜炎	総数	15	5	2	-	1	-	2	1	-	-	1	3	-
	保育園	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小学校	14	5	1	-	1	-	2	1	-	-	1	3	-
	中学校	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	総数	364	18	20	12	18	88	89	23	24	13	15	19	25
	保育園	240	11	15	8	6	66	72	14	20	5	11	5	7
	小学校	119	7	5	4	12	22	16	8	3	6	4	14	18
	中学校	5	-	-	-	-	-	1	1	1	2	-	-	-
その他	総数	9,520	732	782	571	714	862	1,003	989	618	693	748	887	921
	保育園	5,331	379	338	245	348	349	461	708	569	450	426	503	555
	小学校	3,854	332	408	308	347	497	517	255	44	215	268	335	328
	中学校	335	21	36	18	19	16	25	26	5	28	54	49	38

保育園は学校欠席者情報収集システム（保育園サーベイランス含む）から収集した情報

集計表

表 1 0 - 1	週別患者報告数（インフルエンザ・小児科・眼科・基幹）	38
表 1 0 - 2	週別定点当たり患者報告数（インフルエンザ・小児科・眼科・基幹）	40
表 1 1 - 1	区別患者報告数（インフルエンザ・小児科・眼科・基幹）	42
表 1 1 - 2	区別定点当たり患者報告数（インフルエンザ・小児科・眼科・基幹）	43
表 1 2	年齢階級別患者報告数（インフルエンザ・小児科・眼科・基幹）	44
表 1 3 - 1	月別患者報告数（基幹）	45
表 1 3 - 2	月別定点当たり患者報告数（基幹）	45
表 1 4	性別・年齢階級別患者報告数（基幹）	45
表 1 5 - 1	月別・性別患者報告数（性感染症）	46
表 1 5 - 2	月別・性別定点当たり患者報告数（性感染症）	46
表 1 6	区別患者報告数（性感染症）	47
表 1 7	年齢階級別患者報告数（性感染症）	47

表10-1(1) 週別患者報告数(インフルエンザ・小児科) 平成28年第1週～平成28年第52週

週	期間	報告定点数(インフルエンザ)	インフルエンザ	報告定点数(小児科)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
1	1.4~1.10	54	123	33	12	15	76	363	31	-	28	9	1	-	26
2	1.11~1.17	54	261	33	12	5	85	329	8	1	19	20	-	-	39
3	1.18~1.24	54	779	33	12	6	114	304	9	-	15	25	-	1	21
4	1.25~1.31	54	1,767	33	13	6	114	297	4	-	12	16	-	-	29
5	2.1~2.7	54	2,634	33	9	8	121	282	15	1	16	15	1	-	27
6	2.8~2.14	54	2,284	33	8	7	64	240	9	-	12	13	1	-	11
7	2.15~2.21	54	1,878	33	5	10	110	236	9	-	9	16	-	-	33
8	2.22~2.28	54	1,399	33	10	7	81	212	11	1	8	24	-	-	20
9	2.29~3.6	54	1,311	33	5	3	72	233	12	1	13	19	-	-	20
10	3.7~3.13	54	943	33	12	1	86	229	6	-	13	13	-	-	23
11	3.14~3.20	54	650	33	3	4	79	183	15	1	11	20	-	-	12
12	3.21~3.27	54	387	33	3	3	52	171	13	1	3	22	1	-	17
13	3.28~4.3	54	373	33	3	2	62	196	18	-	9	19	-	-	10
14	4.4~4.10	61	274	37	8	7	69	221	23	1	2	17	-	1	30
15	4.11~4.17	60	210	37	8	5	112	235	17	2	7	26	-	-	22
16	4.18~4.24	60	223	37	6	8	125	258	32	1	7	24	-	1	21
17	4.25~5.1	60	96	37	5	17	157	247	18	3	6	33	-	-	23
18	5.2~5.8	60	19	37	-	9	85	146	23	3	4	19	-	-	23
19	5.9~5.15	61	12	37	-	26	130	188	13	4	9	14	-	1	26
20	5.16~5.22	61	14	37	-	20	129	243	11	2	11	31	-	1	26
21	5.23~5.29	61	6	37	2	21	149	282	22	9	11	43	-	-	31
22	5.30~6.5	61	4	37	3	28	127	335	15	5	9	28	-	4	14
23	6.6~6.12	61	2	37	8	23	161	323	17	9	5	12	-	6	28
24	6.13~6.19	61	1	37	1	26	140	265	19	7	8	29	-	11	34
25	6.20~6.26	61	-	37	7	21	111	246	10	6	14	27	-	26	36
26	6.27~7.3	61	1	37	3	20	137	252	13	13	11	28	1	95	32
27	7.4~7.10	61	3	37	4	16	117	196	19	17	11	19	1	168	62
28	7.11~7.17	61	1	37	13	11	109	212	22	27	9	31	-	290	46
29	7.18~7.24	61	-	37	5	7	68	158	16	45	11	23	-	268	37
30	7.25~7.31	60	1	36	8	9	62	182	22	36	11	14	-	342	45
31	8.1~8.7	60	-	36	8	8	63	181	19	33	11	18	-	231	55
32	8.8~8.14	56	-	32	6	9	27	118	7	16	10	13	-	153	38
33	8.15~8.21	51	6	32	15	13	27	116	12	20	5	24	-	96	68
34	8.22~8.28	58	-	34	25	9	42	151	10	18	6	23	-	96	43
35	8.29~9.4	60	8	36	43	6	45	165	8	21	9	27	-	85	31
36	9.5~9.11	60	8	36	73	4	58	195	4	36	4	21	-	60	56
37	9.12~9.18	60	15	36	118	5	61	182	6	38	5	33	-	40	38
38	9.19~9.25	60	11	36	79	8	36	119	10	41	4	23	-	29	34
39	9.26~10.2	60	19	36	89	4	73	175	18	78	9	23	1	47	50
40	10.3~10.9	60	10	36	97	13	65	193	13	107	1	23	-	45	60
41	10.10~10.16	60	9	36	53	6	48	177	16	73	3	21	-	21	45
42	10.17~10.23	60	24	36	35	7	71	272	11	71	2	10	1	16	67
43	10.24~10.30	60	35	36	35	3	69	312	36	67	2	17	1	6	68
44	10.31~11.6	60	36	36	22	13	48	413	13	65	2	22	-	9	52
45	11.7~11.13	60	41	36	23	11	60	589	35	30	-	15	-	3	47
46	11.14~11.20	60	74	36	5	10	66	705	19	35	5	21	-	9	49
47	11.21~11.27	60	96	36	8	8	73	731	30	26	-	21	-	8	58
48	11.28~12.4	60	228	36	10	10	80	879	61	32	3	22	-	2	54
49	12.5~12.11	60	212	36	3	13	72	892	36	18	2	16	-	1	50
50	12.12~12.18	60	421	36	5	10	64	915	47	11	2	11	-	2	52
51	12.19~12.25	60	740	36	7	13	71	694	37	20	1	23	-	3	39
52	12.26~1.1	60	597	36	4	15	42	346	23	12	2	12	-	-	43
合計			18,246	合計	951	549	4,365	15,784	943	1,064	402	1,088	9	2,177	1,921

表10-1(2) 週別患者報告数(眼科・基幹) 平成28年第1週～平成28年第52週

週	期間	報告定点数 (眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
1	1.4~1.10	7	1	14
2	1.11~1.17	7	-	3
3	1.18~1.24	7	-	9
4	1.25~1.31	7	-	12
5	2.1~2.7	7	-	12
6	2.8~2.14	7	-	5
7	2.15~2.21	7	-	5
8	2.22~2.28	7	-	7
9	2.29~3.6	7	-	6
10	3.7~3.13	7	-	9
11	3.14~3.20	7	-	6
12	3.21~3.27	7	-	4
13	3.28~4.3	7	-	11
14	4.4~4.10	9	-	19
15	4.11~4.17	9	1	25
16	4.18~4.24	9	-	22
17	4.25~5.1	9	2	12
18	5.2~5.8	9	1	15
19	5.9~5.15	9	-	21
20	5.16~5.22	9	-	10
21	5.23~5.29	9	-	10
22	5.30~6.5	9	-	12
23	6.6~6.12	9	1	17
24	6.13~6.19	9	-	16
25	6.20~6.26	9	1	28
26	6.27~7.3	9	-	25
27	7.4~7.10	9	-	26
28	7.11~7.17	9	-	17
29	7.18~7.24	9	-	26
30	7.25~7.31	9	1	17
31	8.1~8.7	9	1	19
32	8.8~8.14	7	-	4
33	8.15~8.21	7	-	9
34	8.22~8.28	9	-	11
35	8.29~9.4	9	-	13
36	9.5~9.11	9	-	14
37	9.12~9.18	9	-	14
38	9.19~9.25	9	2	15
39	9.26~10.2	9	-	18
40	10.3~10.9	9	-	20
41	10.10~10.16	9	-	15
42	10.17~10.23	9	-	18
43	10.24~10.30	9	-	19
44	10.31~11.6	9	-	12
45	11.7~11.13	9	-	21
46	11.14~11.20	9	-	25
47	11.21~11.27	9	-	16
48	11.28~12.4	9	-	28
49	12.5~12.11	9	-	22
50	12.12~12.18	9	-	27
51	12.19~12.25	9	-	25
52	12.26~1.1	8	-	22
合計			11	808

報告定点数 (基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
2	-	-	-	-	-	1
2	-	1	-	-	-	2
2	-	2	1	-	-	2
2	-	1	-	-	-	3
2	-	1	-	-	-	8
2	1	-	2	-	-	11
2	-	-	-	-	-	9
2	-	-	-	-	-	5
2	-	2	-	-	-	3
2	-	1	-	-	-	2
2	-	-	1	-	-	-
2	-	2	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-
2	-	1	-	-	-	2
2	-	-	-	-	1	-
2	-	1	-	-	-	1
2	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	1
2	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-
2	-	-	1	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-
2	-	-	1	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-
2	-	2	-	-	-	1
2	-	1	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-
2	-	-	3	-	-	-
2	-	2	2	-	-	1
2	-	1	-	-	-	-
2	-	-	1	-	-	-
2	-	-	-	-	-	1
2	-	-	-	-	-	2
2	-	1	1	-	-	2
2	-	-	2	-	-	2
2	-	-	1	-	-	1
2	-	-	2	-	-	-
2	-	-	-	-	-	1
2	-	-	-	-	-	3
2	-	1	2	-	-	2
2	-	-	1	-	-	3
2	-	-	-	-	-	6
2	-	-	-	-	-	8
合計	3	23	21	-	1	84

表10-2(1) 週別定点当たり患者報告数(インフルエンザ・小児科) 平成28年第1週～平成28年第52週

週	期間	報告定点数(インフルエンザ)	インフルエンザ	報告定点数(小児科)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
1	1.4~1.10	54	2.28	33	0.36	0.45	2.30	11.00	0.94	-	0.85	0.27	0.03	-	0.79
2	1.11~1.17	54	4.83	33	0.36	0.15	2.58	9.97	0.24	0.03	0.58	0.61	-	-	1.18
3	1.18~1.24	54	14.43	33	0.36	0.18	3.45	9.21	0.27	-	0.45	0.76	-	0.03	0.64
4	1.25~1.31	54	32.72	33	0.39	0.18	3.45	9.00	0.12	-	0.36	0.48	-	-	0.88
5	2.1~2.7	54	48.78	33	0.27	0.24	3.67	8.55	0.45	0.03	0.48	0.45	0.03	-	0.82
6	2.8~2.14	54	42.30	33	0.24	0.21	1.94	7.27	0.27	-	0.36	0.39	0.03	-	0.33
7	2.15~2.21	54	34.78	33	0.15	0.30	3.33	7.15	0.27	-	0.27	0.48	-	-	1.00
8	2.22~2.28	54	25.91	33	0.30	0.21	2.45	6.42	0.33	0.03	0.24	0.73	-	-	0.61
9	2.29~3.6	54	24.28	33	0.15	0.09	2.18	7.06	0.36	0.03	0.39	0.58	-	-	0.61
10	3.7~3.13	54	17.46	33	0.36	0.03	2.61	6.94	0.18	-	0.39	0.39	-	-	0.70
11	3.14~3.20	54	12.04	33	0.09	0.12	2.39	5.55	0.45	0.03	0.33	0.61	-	-	0.36
12	3.21~3.27	54	7.17	33	0.09	0.09	1.58	5.18	0.39	0.03	0.09	0.67	0.03	-	0.52
13	3.28~4.3	54	6.91	33	0.09	0.06	1.88	5.94	0.55	-	0.27	0.58	-	-	0.30
14	4.4~4.10	61	4.49	37	0.22	0.19	1.86	5.97	0.62	0.03	0.05	0.46	-	0.03	0.81
15	4.11~4.17	60	3.50	37	0.22	0.14	3.03	6.35	0.46	0.05	0.19	0.70	-	-	0.59
16	4.18~4.24	60	3.72	37	0.16	0.22	3.38	6.97	0.86	0.03	0.19	0.65	-	0.03	0.57
17	4.25~5.1	60	1.60	37	0.14	0.46	4.24	6.68	0.49	0.08	0.16	0.89	-	-	0.62
18	5.2~5.8	60	0.32	37	-	0.24	2.30	3.95	0.62	0.08	0.11	0.51	-	-	0.62
19	5.9~5.15	61	0.20	37	-	0.70	3.51	5.08	0.35	0.11	0.24	0.38	-	0.03	0.70
20	5.16~5.22	61	0.23	37	-	0.54	3.49	6.57	0.30	0.05	0.30	0.84	-	0.03	0.70
21	5.23~5.29	61	0.10	37	0.05	0.57	4.03	7.62	0.59	0.24	0.30	1.16	-	-	0.84
22	5.30~6.5	61	0.07	37	0.08	0.76	3.43	9.05	0.41	0.14	0.24	0.76	-	0.11	0.38
23	6.6~6.12	61	0.03	37	0.22	0.62	4.35	8.73	0.46	0.24	0.14	0.32	-	0.16	0.76
24	6.13~6.19	61	0.02	37	0.03	0.70	3.78	7.16	0.51	0.19	0.22	0.78	-	0.30	0.92
25	6.20~6.26	61	-	37	0.19	0.57	3.00	6.65	0.27	0.16	0.38	0.73	-	0.70	0.97
26	6.27~7.3	61	0.02	37	0.08	0.54	3.70	6.81	0.35	0.35	0.30	0.76	0.03	2.57	0.86
27	7.4~7.10	61	0.05	37	0.11	0.43	3.16	5.30	0.51	0.46	0.30	0.51	0.03	4.54	1.68
28	7.11~7.17	61	0.02	37	0.35	0.30	2.95	5.73	0.59	0.73	0.24	0.84	-	7.84	1.24
29	7.18~7.24	61	-	37	0.14	0.19	1.84	4.27	0.43	1.22	0.30	0.62	-	7.24	1.00
30	7.25~7.31	60	0.02	36	0.22	0.25	1.72	5.06	0.61	1.00	0.31	0.39	-	9.50	1.25
31	8.1~8.7	60	-	36	0.22	0.22	1.75	5.03	0.53	0.92	0.31	0.50	-	6.42	1.53
32	8.8~8.14	56	-	32	0.19	0.28	0.84	3.69	0.22	0.50	0.31	0.41	-	4.78	1.19
33	8.15~8.21	51	0.12	32	0.47	0.41	0.84	3.63	0.38	0.63	0.16	0.75	-	3.00	2.13
34	8.22~8.28	58	-	34	0.74	0.26	1.24	4.44	0.29	0.53	0.18	0.68	-	2.82	1.26
35	8.29~9.4	60	0.13	36	1.19	0.17	1.25	4.58	0.22	0.58	0.25	0.75	-	2.36	0.86
36	9.5~9.11	60	0.13	36	2.03	0.11	1.61	5.42	0.11	1.00	0.11	0.58	-	1.67	1.56
37	9.12~9.18	60	0.25	36	3.28	0.14	1.69	5.06	0.17	1.06	0.14	0.92	-	1.11	1.06
38	9.19~9.25	60	0.18	36	2.19	0.22	1.00	3.31	0.28	1.14	0.11	0.64	-	0.81	0.94
39	9.26~10.2	60	0.32	36	2.47	0.11	2.03	4.86	0.50	2.17	0.25	0.64	0.03	1.31	1.39
40	10.3~10.9	60	0.17	36	2.69	0.36	1.81	5.36	0.36	2.97	0.03	0.64	-	1.25	1.67
41	10.10~10.16	60	0.15	36	1.47	0.17	1.33	4.92	0.44	2.03	0.08	0.58	-	0.58	1.25
42	10.17~10.23	60	0.40	36	0.97	0.19	1.97	7.56	0.31	1.97	0.06	0.28	0.03	0.44	1.86
43	10.24~10.30	60	0.58	36	0.97	0.08	1.92	8.67	1.00	1.86	0.06	0.47	0.03	0.17	1.89
44	10.31~11.6	60	0.60	36	0.61	0.36	1.33	11.47	0.36	1.81	0.06	0.61	-	0.25	1.44
45	11.7~11.13	60	0.68	36	0.64	0.31	1.67	16.36	0.97	0.83	-	0.42	-	0.08	1.31
46	11.14~11.20	60	1.23	36	0.14	0.28	1.83	19.58	0.53	0.97	0.14	0.58	-	0.25	1.36
47	11.21~11.27	60	1.60	36	0.22	0.22	2.03	20.31	0.83	0.72	-	0.58	-	0.22	1.61
48	11.28~12.4	60	3.80	36	0.28	0.28	2.22	24.42	1.69	0.89	0.08	0.61	-	0.06	1.50
49	12.5~12.11	60	3.53	36	0.08	0.36	2.00	24.78	1.00	0.50	0.06	0.44	-	0.03	1.39
50	12.12~12.18	60	7.02	36	0.14	0.28	1.78	25.42	1.31	0.31	0.06	0.31	-	0.06	1.44
51	12.19~12.25	60	12.33	36	0.19	0.36	1.97	19.28	1.03	0.56	0.03	0.64	-	0.08	1.08
52	12.26~1.1	60	9.95	36	0.11	0.42	1.17	9.61	0.64	0.33	0.06	0.33	-	-	1.19
平均			6.37	平均	0.51	0.29	2.36	8.56	0.51	0.57	0.22	0.59	0.01	1.17	1.04

表10-2(2) 週別定点当たり患者報告数(眼科・基幹) 平成28年第1週～平成28年第52週

週	期間	報告定点数 (眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	報告定点数(基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	インフルエンザ入院
1	1.4~1.10	7	0.14	2.00	2	-	-	-	-	-	0.50
2	1.11~1.17	7	-	0.43	2	-	0.50	-	-	-	1.00
3	1.18~1.24	7	-	1.29	2	-	1.00	0.50	-	-	1.00
4	1.25~1.31	7	-	1.71	2	-	0.50	-	-	-	1.50
5	2.1~2.7	7	-	1.71	2	-	0.50	-	-	-	4.00
6	2.8~2.14	7	-	0.71	2	0.50	-	1.00	-	-	5.50
7	2.15~2.21	7	-	0.71	2	-	-	-	-	-	4.50
8	2.22~2.28	7	-	1.00	2	-	-	-	-	-	2.50
9	2.29~3.6	7	-	0.86	2	-	1.00	-	-	-	1.50
10	3.7~3.13	7	-	1.29	2	-	0.50	-	-	-	1.00
11	3.14~3.20	7	-	0.86	2	-	-	0.50	-	-	-
12	3.21~3.27	7	-	0.57	2	-	1.00	-	-	-	-
13	3.28~4.3	7	-	1.57	2	-	-	-	-	-	-
14	4.4~4.10	9	-	2.11	2	-	0.50	-	-	-	1.00
15	4.11~4.17	9	0.11	2.78	2	-	-	-	-	0.50	-
16	4.18~4.24	9	-	2.44	2	-	0.50	-	-	-	0.50
17	4.25~5.1	9	0.22	1.33	2	-	-	-	-	-	-
18	5.2~5.8	9	0.11	1.67	2	-	-	-	-	-	-
19	5.9~5.15	9	-	2.33	2	-	-	-	-	-	0.50
20	5.16~5.22	9	-	1.11	2	-	-	-	-	-	-
21	5.23~5.29	9	-	1.11	2	-	-	-	-	-	-
22	5.30~6.5	9	-	1.33	2	-	-	-	-	-	-
23	6.6~6.12	9	0.11	1.89	2	-	-	-	-	-	-
24	6.13~6.19	9	-	1.78	2	-	-	-	-	-	-
25	6.20~6.26	9	0.11	3.11	2	-	-	0.50	-	-	-
26	6.27~7.3	9	-	2.78	2	-	-	-	-	-	-
27	7.4~7.10	9	-	2.89	2	-	-	0.50	-	-	-
28	7.11~7.17	9	-	1.89	2	0.50	-	-	-	-	0.50
29	7.18~7.24	9	-	2.89	2	-	1.00	-	-	-	0.50
30	7.25~7.31	9	0.11	1.89	2	-	0.50	-	-	-	-
31	8.1~8.7	9	0.11	2.11	2	-	-	-	-	-	-
32	8.8~8.14	7	-	0.57	2	-	-	-	-	-	-
33	8.15~8.21	7	-	1.29	2	-	-	-	-	-	-
34	8.22~8.28	9	-	1.22	2	0.50	-	-	-	-	-
35	8.29~9.4	9	-	1.44	2	-	-	0.50	-	-	-
36	9.5~9.11	9	-	1.56	2	-	-	-	-	-	-
37	9.12~9.18	9	-	1.56	2	-	1.50	-	-	-	-
38	9.19~9.25	9	0.22	1.67	2	-	1.00	1.00	-	-	0.50
39	9.26~10.2	9	-	2.00	2	-	0.50	-	-	-	-
40	10.3~10.9	9	-	2.22	2	-	-	0.50	-	-	-
41	10.10~10.16	9	-	1.67	2	-	-	1.00	-	-	0.50
42	10.17~10.23	9	-	2.00	2	-	-	-	-	-	1.00
43	10.24~10.30	9	-	2.11	2	-	0.50	0.50	-	-	1.00
44	10.31~11.6	9	-	1.33	2	-	-	1.00	-	-	1.00
45	11.7~11.13	9	-	2.33	2	-	-	0.50	-	-	0.50
46	11.14~11.20	9	-	2.78	2	-	-	1.00	-	-	-
47	11.21~11.27	9	-	1.78	2	-	-	-	-	-	0.50
48	11.28~12.4	9	-	3.11	2	-	-	-	-	-	1.50
49	12.5~12.11	9	-	2.44	2	-	0.50	1.00	-	-	1.00
50	12.12~12.18	9	-	3.00	2	-	-	0.50	-	-	1.50
51	12.19~12.25	9	-	2.78	2	-	-	-	-	-	3.00
52	12.26~1.1	8	-	2.75	2	-	-	-	-	-	4.00
平均			0.024	1.80	平均	0.03	0.22	0.20	-	0.01	0.81

表11-1(1) 区別患者報告数(インフルエンザ・小児科) 平成28年第1週～平成28年第52週

	設置定点数(インフルエンザ)		インフルエンザ
	第1週～第13週	第14週～第52週	
川崎区	8	8	4,283
幸区	7	7	1,422
中原区	8	10	1,546
高津区	8	10	3,526
宮前区	8	10	3,014
多摩区	8	8	2,925
麻生区	7	8	1,530
合計	54	61	18,246
定点当たり報告数			331.45

	設置定点数(小児科)		RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
	第1週～第13週	第14週～第52週											
川崎区	5	5	6	16	722	3,179	167	173	112	147	6	227	392
幸区	4	4	89	17	252	889	89	68	23	71	-	273	133
中原区	5	6	57	36	271	2,070	76	106	83	123	-	197	171
高津区	5	6	154	63	731	3,731	235	196	54	187	1	353	386
宮前区	5	6	385	235	1,091	2,469	134	258	46	220	-	477	167
多摩区	5	5	208	132	1,096	2,222	182	148	69	237	1	420	540
麻生区	4	5	52	50	202	1,224	60	115	15	103	1	230	132
合計	33	37	951	549	4,365	15,784	943	1,064	402	1,088	9	2,177	1,921
定点当たり報告数			26.71	15.32	122.86	444.95	26.42	29.62	11.57	30.66	0.27	60.86	54.16

表11-1(2) 区別患者報告数(眼科・基幹) 平成28年第1週～平成28年第52週

	設置定点数(眼科)		急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
	第1週～第13週	第14週～第52週		
川崎区	1	1	-	7
幸区	1	1	-	2
中原区	1	2	5	120
高津区	1	1	-	178
宮前区	1	2	6	246
多摩区	1	1	-	113
麻生区	1	1	-	142
合計	7	9	11	808
定点当たり報告数			1.24	93.76

	設置定点数(基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(オウム病を除く。)	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	インフルエンザ入院
幸区							
中原区							
高津区							
宮前区	1	2	5	3	-	-	21
多摩区							
麻生区							
合計	2	3	23	21	-	1	84
定点当たり報告数		1.50	11.50	10.50	-	0.50	42.00

表11-2(1) 区別定点当たり患者報告数(インフルエンザ・小児科) 平成28年第1週～平成28年第52週

	設置定点数(インフルエンザ)		インフルエンザ		RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎		
	第1週～第13週	第14週～第52週															
川崎区	8	8	535.58	川崎区	5	5	1.20	3.20	144.40	635.80	33.40	34.60	22.40	29.40	1.20	45.40	78.40
幸区	7	7	203.15	幸区	4	4	22.25	4.25	63.42	222.83	22.25	17.08	5.75	17.75	-	69.17	33.42
中原区	8	10	186.56	中原区	5	6	11.17	6.96	51.16	397.03	14.07	20.75	15.44	23.53	-	37.90	32.17
高津区	8	10	420.17	高津区	5	6	26.02	10.83	127.23	643.89	39.95	32.74	9.67	32.77	0.17	59.36	66.46
宮前区	8	10	365.72	宮前区	5	6	65.76	40.26	191.01	429.02	23.19	43.39	7.82	38.49	-	82.57	28.64
多摩区	8	8	365.76	多摩区	5	5	42.05	26.45	219.40	445.45	36.50	29.70	13.80	47.80	0.20	85.45	109.60
麻生区	7	8	212.39	麻生区	4	5	10.45	10.05	42.95	250.95	12.35	23.10	3.15	21.25	0.20	46.20	26.90
定点当たり報告数			331.45	定点当たり報告数			26.71	15.32	122.86	444.95	26.42	29.62	11.57	30.66	0.27	60.86	54.16

表11-2(2) 区別定点当たり患者報告数(眼科・基幹) 平成28年第1週～平成28年第52週

	設置定点数(眼科)		急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	設置定点数(基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	インフルエンザ入院		
	第1週～第13週	第14週～第52週											
川崎区	1	1	-	7.00	川崎区	1	1.00	18.00	18.00	-	1.00	63.00	
幸区	1	1	-	2.00	幸区								
中原区	1	2	3.00	72.00	中原区								
高津区	1	1	-	178.00	高津区								
宮前区	1	2	3.00	125.00	宮前区	1	2.00	5.00	3.00	-	-	21.00	
多摩区	1	1	-	113.00	多摩区								
麻生区	1	1	-	142.00	麻生区								
定点当たり報告数			1.24	93.76	定点当たり報告数			1.50	11.50	10.50	-	0.50	42.00

表12(1) 年齢階級別患者報告数(インフルエンザ・小児科) 平成28年第1週～平成28年第52週

インフルエンザ		RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
0-5ヶ月	38	152	1	1	93	3	8	-	15	1	10	-
6-11ヶ月	193	280	30	13	969	34	104	11	347	1	187	3
1歳	671	339	126	93	2,243	69	403	32	560	-	666	28
2歳	642	116	96	201	1,769	56	187	32	125	-	489	60
3歳	832	41	92	351	1,660	94	123	53	31	-	313	116
4歳	1,183	21	78	581	1,790	118	86	72	10	-	216	196
5歳	1,354	2	51	608	1,472	124	49	74	-	-	145	252
6歳	1,410	-	32	622	1,116	141	33	39	-	-	59	267
7歳	1,426	-	12	558	895	94	16	36	-	-	35	266
8歳	1,213	-	5	383	707	72	8	25	-	-	15	208
9歳	937	-	10	236	486	54	7	9	-	-	11	183
10-14歳	2,679	-	5	411	1,068	63	16	15	-	1	15	266
15-19歳	644	-	-	26	151	5	-	1	-	-	5	22
20-29歳	909	-	11	281	1,365	16	24	3	-	6	11	54
30-39歳	1,446											
40-49歳	1,456											
50-59歳	654											
60-69歳	374											
70-79歳	125											
80歳以上	60											
合計	18,246	951	549	4,365	15,784	943	1,064	402	1,088	9	2,177	1,921

表12(2) 年齢階級別患者報告数(眼科・基幹) 平成28年第1週～平成28年第52週

急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	インフルエンザ入院	
0-5ヶ月	-	2	-	7	-	-	1	4
6-11ヶ月	-	14	-	1	-	-	-	4
1歳	2	45	-	1	-	-	-	8
2歳	1	27	-	-	-	-	-	6
3歳	-	36	-	-	2	-	-	5
4歳	-	37	-	-	1	-	-	3
5歳	-	39	-	-	-	-	-	1
6歳	-	10	-	-	2	-	-	4
7歳	-	14	-	-	-	-	-	1
8歳	-	14	-	-	2	-	-	3
9歳	-	6	-	-	2	-	-	1
10-14歳	-	26	-	-	1	-	-	2
15-19歳	-	15	-	2	4	-	-	1
20-29歳	1	84	-	3	4	-	-	1
30-39歳	-	176	-	-	-	-	-	2
40-49歳	4	116	1	6	-	-	-	1
50-59歳	-	55	1	-	3	-	-	2
60-69歳	1	47	1	1	-	-	-	9
70歳以上	2	45	-	2	-	-	-	16
80歳以上	-	-	-	-	-	-	-	10
合計	11	808	3	23	21	-	1	84

表13-1 月別患者報告数(基幹)
平成28年1月～平成28年12月

	報告定点数	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	薬剤耐性緑膿菌感染症
1月	2	4	2	-
2月	2	3	1	-
3月	2	3	2	-
4月	2	4	-	-
5月	2	1	-	-
6月	2	2	-	-
7月	2	2	-	-
8月	2	1	-	-
9月	2	4	2	-
10月	2	1	1	-
11月	2	3	-	1
12月	2	5	1	1
合計		33	9	2

表13-2 月別定点当たり患者報告数(基幹)
平成28年1月～平成28年12月

	報告定点数	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	薬剤耐性緑膿菌感染症
1月	2	2.00	1.00	-
2月	2	1.50	0.50	-
3月	2	1.50	1.00	-
4月	2	2.00	-	-
5月	2	0.50	-	-
6月	2	1.00	-	-
7月	2	1.00	-	-
8月	2	0.50	-	-
9月	2	2.00	1.00	-
10月	2	0.50	0.50	-
11月	2	1.50	-	0.50
12月	2	2.50	0.50	0.50
平均		1.38	0.38	0.08

表14 性別・年齢階級別患者報告数(基幹)
平成28年1月～平成28年12月

	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		薬剤耐性緑膿菌感染症	
	男	女	男	女	男	女
0歳	-	-	-	-	-	-
1-4歳	1	-	-	-	-	-
5-9歳	-	1	-	-	-	-
10-14歳	-	-	-	-	-	-
15-19歳	-	-	-	-	-	-
20-24歳	1	-	1	-	-	-
25-29歳	1	-	-	-	-	-
30-34歳	-	1	-	-	-	-
35-39歳	1	-	-	-	-	-
40-44歳	-	1	-	-	-	-
45-49歳	2	-	-	-	-	-
50-54歳	-	-	-	-	-	-
55-59歳	2	-	-	-	1	1
60-64歳	-	-	-	1	-	-
65-69歳	-	2	-	1	-	-
70歳以上	11	9	6	-	-	-
合計	19	14	7	2	1	1
男女合計	33		9		2	

表15-1 月別・性別患者報告数(性感染症)
平成28年1月～平成28年12月

	報告 定点 数	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス 感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
		男	女	男	女	男	女	男	女
1月	7	4	9	2	1	3	-	3	1
2月	7	4	15	-	2	-	2	-	1
3月	7	2	13	-	2	1	1	3	-
4月	12	12	11	4	1	5	4	10	-
5月	12	13	5	1	6	6	1	11	-
6月	12	17	14	7	5	5	9	9	1
7月	12	15	13	8	3	3	3	6	2
8月	12	19	12	5	3	2	1	15	2
9月	12	14	8	6	5	4	4	6	1
10月	12	30	12	3	3	3	6	8	-
11月	12	11	9	1	4	4	8	5	1
12月	12	16	8	6	4	3	4	4	-
合 計		157	129	43	39	39	43	80	9
男女合計		286		82		82		89	

表15-2 月別・性別定点当たり患者報告数(性感染症)
平成28年1月～平成28年12月

	報告 定点 数	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス 感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
		男	女	男	女	男	女	男	女
1月	7	0.57	1.29	0.29	0.14	0.43	-	0.43	0.14
2月	7	0.57	2.14	-	0.29	-	0.29	-	0.14
3月	7	0.29	1.86	-	0.29	0.14	0.14	0.43	-
4月	12	1.00	0.92	0.33	0.08	0.42	0.33	0.83	-
5月	12	1.08	0.42	0.08	0.50	0.50	0.08	0.92	-
6月	12	1.42	1.17	0.58	0.42	0.42	0.75	0.75	0.08
7月	12	1.25	1.08	0.67	0.25	0.25	0.25	0.50	0.17
8月	12	1.58	1.00	0.42	0.25	0.17	0.08	1.25	0.17
9月	12	1.17	0.67	0.50	0.42	0.33	0.33	0.50	0.08
10月	12	2.50	1.00	0.25	0.25	0.25	0.50	0.67	-
11月	12	0.92	0.75	0.08	0.33	0.33	0.67	0.42	0.08
12月	12	1.33	0.67	0.50	0.33	0.25	0.33	0.33	-
平 均		1.14	1.08	0.31	0.30	0.29	0.31	0.59	0.07
男女合計		2.22		0.61		0.60		0.66	

表16 区別患者報告数(性感染症)
平成28年1月～平成28年12月

	設置定点数		性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	1月～3月	4月～12月	男	女	男	女	男	女	男	女
川崎区	1	2	22	31	1	6	7	10	10	1
幸区	1	1	10	10	-	3	1	-	12	2
中原区	1	3	79	12	19	12	13	16	24	1
高津区	1	3	35	66	8	7	11	13	25	3
宮前区	1	1	1	7	-	9	5	4	2	2
多摩区	1	1	-	2	-	2	2	-	-	-
麻生区	1	1	10	1	15	-	-	-	7	-
合 計	7	12	157	129	43	39	39	43	80	9
定点当たり報告数(男女別)			13.68	12.95	3.70	3.55	3.49	3.76	7.02	0.87
定点当たり報告数			26.63		7.25		7.25		7.89	

表17 年齢階級別患者報告数(性感染症)
平成28年1月～平成28年12月

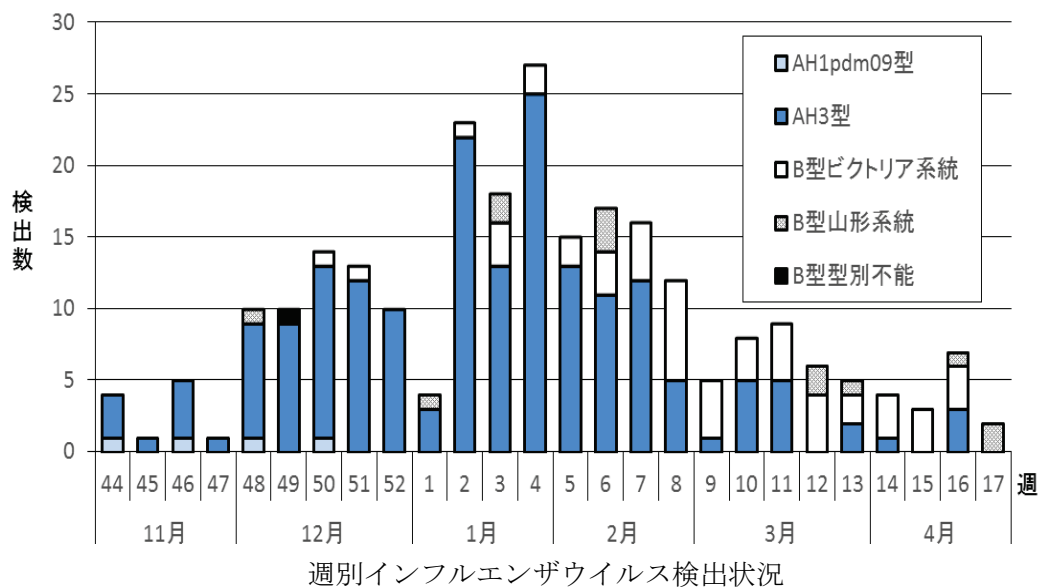
	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳	-	-	-	-	-	-	-	-
1-4歳	-	-	-	-	-	-	-	-
5-9歳	-	-	-	-	-	-	-	-
10-14歳	1	-	-	-	-	-	-	-
15-19歳	6	9	1	1	-	-	4	3
20-24歳	35	36	9	8	6	12	22	3
25-29歳	36	27	9	8	10	9	12	1
30-34歳	34	27	6	7	7	9	12	1
35-39歳	15	23	4	-	4	7	9	-
40-44歳	11	6	4	2	3	4	9	-
45-49歳	10	1	3	3	2	1	6	-
50-54歳	4	-	1	2	3	1	2	-
55-59歳	3	-	1	1	3	-	1	-
60-64歳	1	-	1	-	1	-	2	-
65-69歳	1	-	-	1	-	-	1	1
70歳以上	-	-	4	6	-	-	-	-
合 計	157	129	43	39	39	43	80	9
男女合計	286		82		82		89	

(2) 病原体情報

ア インフルエンザ検査状況

2016/2017 シーズンは、インフルエンザ様疾患患者の咽頭ぬぐい液または鼻腔ぬぐい液が合計 308 例搬入され、そのうちリアルタイム PCR ならびにウイルス分離培養で 279 例 (90.6%) がインフルエンザウイルス陽性であった。血清型別の内訳は、AH1pdm09 型が 5 例、A 香港 (AH3) 型が 201 例、B 型 (ビクトリア系統) が 52 例、B 型 (山形系統) が 20 例、B 型 (型別不明) が 1 例であった。

週別のインフルエンザウイルス分離状況では、初めてウイルスが検出されたのは 9 月の第 1 週 (第 35 週) で、12 月の第 3 週 (第 50 週) までは AH3 型に加えて AH1pdm09 型も散在して検出された。検出数が増加したのは 12 月の第 1 週 (第 48 週) からで、検出数のピークは 1 月の第 4 週 (第 4 週) で AH3 型が 25 例、B 型 (ビクトリア系統) が 2 例の計 27 例であった。2016/2017 シーズンに検出されたインフルエンザウイルスの 72.0% が AH3 型で流行の主流であった。流行の後半 (3~4 月) は B 型 (ビクトリア系統・山形系統) の割合が増加し、2015/2016 シーズンの主流であった AH1pdm09 型の検出数は少なかった。



イ ウイルス性集団胃腸炎検査状況

川崎市ではウイルスを原因とする感染性胃腸炎の集団発生が 10 事例確認された。その内訳はノロウイルス 9 事例、ロタウイルス 1 事例であった。例年に比べて、高齢者福祉施設でのノロウイルスの集団発生は少なかった。

表 18 ウイルス性集団胃腸炎の検査状況

番号	発生年月	施設区分	発症者数 (人)	検査数 (件)	検出数 (件)	検出ウイルス	遺伝子群
1	H28.1	保育園	43	3	3	ノロウイルス	GII.4
2	H28.1	高齢者福祉施設	27	6	4	ノロウイルス	GII.4
3	H28.1	高齢者福祉施設	不明	6	6	ノロウイルス	GII.4
4	H28.3	小学校	不明	25	11	ノロウイルス	GII.4
5	H28.5	保育園	21	4	4	ノロウイルス	GII.4
6	H28.6	小学校	69	5	5	ノロウイルス	GII.3
7	H28.6	保育園	3	2	2	ロタウイルス	G2P[4]
8	H28.10	保育園	38	1	1	ノロウイルス	GII.2
9	H28.11	保育園	60	1	1	ノロウイルス	GII.2
10	H28.12	保育園	不明	5	4	ノロウイルス	GII.2

ウ 麻疹ウイルス検出状況

平成 28 年 1 月から 12 月までに川崎市内の医療機関において麻しんと診断された 25 例について麻疹ウイルス遺伝子検査を行ったところ、麻疹ウイルス D8 型が 3 例検出された。なお、麻疹ウイルスが検出された患者 1 例は、韓国への渡航歴があった。

エ その他のウイルス検出状況

(ア) 手足口病

平成 28 年 1 月から 12 月までに病原体定点医療機関で採取された手足口病患者検体 21 例についてウイルス分離ならびに PCR 検査を実施したところ、19 例からウイルスが検出された。その内訳はコクサッキーウイルス A6 (CA6) 型 13 株、CA16 型 3 株、ヒトヘルペスウイルス 7 型 2 株、パレコウイルス 1 型 1 株であった。

(イ) ヘルパンギーナ

平成 28 年 1 月から 12 月までに病原体定点医療機関で採取されたヘルパンギーナ患者検体 16 例についてウイルス分離ならびに PCR 検査を実施したところ、15 例からウイルスが検出された。その内訳は CA2 型 4 株、CA4 型 6 株、CA5 型 2 株、CB5 型 1 株、ライノウイルス 1 株、アデノウイルス 53 型 1 株であった。

(ウ) 咽頭結膜熱

平成 28 年 1 月から 12 月までに病原体定点医療機関で採取された咽頭結膜熱患者検体 18 例についてウイルス分離ならびに PCR 検査を実施したところ、14 例からウイルスが検出された。その内訳はアデノウイルス 1 型 3 株、アデノウイルス 2 型 4 株、アデノウイル

ス3型2株、アデノウイルス4型3株、アデノウイルス53型1株、インフルエンザウイルスAH1pdm09型が1株であった。

オ ウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス

市内7箇所の保健所支所にライトトラップを設置し、平成28年5月から10月まで蚊を毎週1回捕集した。種別した雌蚊166プール*についてウエストナイルウイルスの保有状況を、また、ヤブカ属の蚊65プールについてはデングウイルス、チクングニアウイルス及びジカウイルスを含むフラビウイルス属の保有状況も併せて調査した。その結果、ウイルス遺伝子は検出されなかった。

*プール：最大50匹とする蚊の集団

表19 WNVサーベイランス調査における蚊の月別及び種別採取数 (プール)

平成28年採取月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	総計
保健所川崎支所	6	11	10	12	7	4	50
保健所幸支所	4	7	5	8	4	2	30
保健所中原支所	1	0	3	4	4	0	12
保健所高津支所	3	3	4	7	5	0	22
保健所宮前支所	4	3	3	4	1	1	16
保健所多摩支所	0	3	1	4	3	2	13
保健所麻生支所	2	4	6	8	3	0	23
合計	20	31	32	47	27	9	166

(匹)

蚊の種類(雌雄合計匹数)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	総計
アカイエカ群	17	100	38	22	17	16	210
ヒトスジシマカ	60	80	155	599	313	107	1314
コガタアカイエカ	0	0	0	0	0	1	1
キンパラナガハシカ	0	1	2	3	2	7	15
ヤマトヤブカ	3	8	3	8	0	0	22
トラフカクイカ	0	1	0	2	0	1	4
オオクロヤブカ	0	0	0	1	2	3	6
総計	80	190	198	635	334	135	1572

ウイルス遺伝子

ウエストナイルウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
デングウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
チクングニアウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
フラビウイルス(ジカウイルス含む)	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

カ チフス菌等のフェージ型別検出状況

平成 28 年 1 月から 12 月までの間に川崎市ではチフス菌事例の発生は認められなかった。

キ 腸管出血性大腸菌検出状況

平成 28 年 1 月から 12 月までに川崎市内の医療機関等で分離され当所に搬入された菌株及び当所で検便から分離した腸管出血性大腸菌は合わせて 59 株であり、その血清型及び毒素型は表のとおりであった。最も多い血清型は O157 の 40 株 (67.8%) であり、次いで O26 が 14 株 (23.7%) であった。

複数名の感染者が確認された事例は、家族内感染事例を除いては 1 件あり、同一保育園において 2 名の患者(O157 VT2 株)が確認された。

表 20 腸管出血性大腸菌の血清型及び毒素型

血清型	毒素型	株数 (株)
O157	VT1VT2	22
O157	VT2	18
O26	VT1	14
O111	VT1	4
O121	VT1	1
計		59

ク 赤痢菌及びコレラ菌検出状況

平成 28 年 1 月から 12 月までに川崎市内の医療機関等で分離され当所に搬入された赤痢菌は 1 株あり、その菌種及び血清型は表のとおりである。

なお、平成 28 年 1 月から 12 月までに川崎市において、コレラ菌が検出された事例は認められなかった。

表 21 赤痢菌の血清型及び患者渡航歴

番号	分離日	性別	年齢	菌種	血清型	渡航先
1	H28. 7. 24	女	30 歳代	<i>Shigella flexneri</i>	3a	ミャンマー

ケ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌検出状況

平成 26 年 9 月の感染症法改正に伴い、「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (CRE) 感染症」が 5 類全数把握疾患として指定された。この改正以降、川崎市では市内における薬剤耐性菌の流行状況を把握するため菌株の収集に努めている。平成 28 年 1 月から 12 月までに川崎

市内の医療機関等で分離され当所に搬入されたカルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (CRE) は、28 株あり、菌種別カルバペネマーゼ遺伝子の保有状況は、表のとおりである。

表 22 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (CRE) の菌種別遺伝子検出状況

菌種	遺伝子検査 実施数 (件)	カルバペネマーゼ遺伝子 保有数 (株)	カルバペネマーゼ遺伝子 保有割合 (%)
<i>Enterobacter cloacae</i>	8	2*	25.0
<i>Enterobacter aerogenes</i>	15	0	0
<i>Escherichia coli</i>	2	0	0
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	1	0	0
<i>Citrobacter freundii</i>	2	0	0
計	28	2	7.1

* IMP-1 遺伝子及び IMI-1 遺伝子 各 1 株

コ A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎検査状況

川崎市における感染症発生動向調査の一環として、定点医療機関において咽頭ぬぐい液を採取し当所に搬入された検体について溶血性レンサ球菌の分離・同定を実施している。平成 28 年 1 月から 12 月までに搬入された検体 18 件中 15 件から A 群溶血性レンサ球菌が分離され、T 型別は表のとおりである。

表 23 A 群溶血性レンサ球菌の T 型別結果

血清型	T1	T3	T4	T6	T12	T25	TB3264	計
件数 (件)	2	2	2	1	2	1	5	15

サ 結核接触者検診におけるインターフェロングamma遊離試験

川崎市では平成 19 年から結核接触者検診においてインターフェロングgamma遊離試験を実施している。当初はクオンティフェロン®TB (QFT) を用いていたが、平成 25 年 12 月からは T スポット®.TB (T-SPOT.TB) に変更した。平成 28 年の検査件数は 801 件で、陽性 49 件 (6.1%)、陽性判定保留 9 件 (1.1%)、陰性判定保留 9 件 (1.1%)、陰性 729 件 (91.0%)、判定不可 5 件 (0.7%) であった。

表 24 結核接触者検診における T-SPOT.TB 検査結果

総数 (件)	陽性		陽性判定保留		陰性判定保留		陰性		判定不可	
	件数 (件)	%	件数 (件)	%	件数 (件)	%	件数 (件)	%	件数 (件)	%
801	49	6.1	9	1.1	9	1.1	729	91.0	5	0.7

第2章

FETP-Kプラン

1 F E T P - Kプランの概要

川崎市感染症情報センターでは、市内における疫学調査支援のための初動体制及びネットワークを構築し、健康危機事象の拡大防止・再発防止に迅速に対応するため、平成 25 年度に F E T P - Kプランを立ち上げ、プランに基づく取組を実施している。

(F E T P - Kプランの概要は別添 1 のとおり)

2 平成 28 年度の取組

(1) 保健所等職員の人材育成による初動体制の構築

保健所及び保健所支所の職員 2 名を国立感染症研究所実地疫学専門家養成コース (F E T P) 初期導入研修へ派遣するとともに、平成 27 年度及び平成 28 年度派遣職員に対するフォローアップ研修を実施した。

ア 国立感染症研究所実地疫学専門家養成コース (F E T P) 初期導入研修修了者

所 属	職 員 名
中原区役所保健福祉センター衛生課	眞川幸治 担当係長
健康福祉局保健所感染症対策課	黒澤仁美 担当係長

イ フォローアップ研修

年 月 日	名 称	場 所	人 数
平成 28 年 5 月 25 日	第 1 回 F E T P - K ミーティング	健康安全研究所	1 名
平成 28 年 6 月 22 日	第 2 回 F E T P - K ミーティング	健康安全研究所	4 名
平成 28 年 7 月 27 日	第 3 回 F E T P - K ミーティング	健康安全研究所	3 名
平成 28 年 8 月 31 日	第 4 回 F E T P - K ミーティング	健康安全研究所	3 名
平成 28 年 9 月 28 日	第 5 回 F E T P - K ミーティング	健康安全研究所	4 名
平成 28 年 10 月 25 日	第 6 回 F E T P - K ミーティング	健康安全研究所	3 名
平成 28 年 11 月 30 日	第 7 回 F E T P - K ミーティング	健康安全研究所	2 名
平成 28 年 12 月 21 日	第 8 回 F E T P - K ミーティング	健康安全研究所	3 名
平成 29 年 1 月 25 日	第 9 回 F E T P - K ミーティング	健康安全研究所	2 名
平成 29 年 2 月 22 日	第 10 回 F E T P - K ミーティング	健康安全研究所	3 名
平成 29 年 3 月 15 日	第 11 回 F E T P - K ミーティング	健康安全研究所	4 名

(2) 平常時からのネットワークの構築

ア メーリングリストの運用

平常時からのネットワーク構築に向け、感染症対策関係職員の間で事例発生を共有するためのメーリングリストを運用し、検査結果等の迅速な情報共有を行った。

イ 疫学ミーティングの開催

平常時から実地疫学専門家と保健所等職員の意見交換を行い、本市における疫学調査技術のレベルアップを図ることを目的として、定期的に疫学ミーティングを開催した。

年 月 日	名 称	場 所
平成 28 年 6 月 30 日	第 1 回疫学ミーティング	幸区役所
平成 28 年 8 月 31 日	第 2 回疫学ミーティング	中原区役所
平成 28 年 11 月 28 日	第 3 回疫学ミーティング	高津区役所
平成 29 年 2 月 27 日	第 4 回疫学ミーティング	麻生区役所

ウ 国立感染症研究所実地疫学専門家養成コース（FETP）との連携強化に向けた取組

川崎市と国立感染症研究所とのインターンシップに関する協定に基づき、国立感染症研究所実地疫学専門家養成コース（FETP）の実習生 3 名の受入れを行った。

年 月 日	名 称	場 所	人 数
平成 28 年 7 月 6 日	第 1 回 FETP-J インターンシップ	健康安全研究所	1 名
平成 28 年 7 月 12 日	第 2 回 FETP-J インターンシップ	健康安全研究所	1 名
平成 28 年 7 月 20 日	第 3 回 FETP-J インターンシップ	健康安全研究所 中原休日急患診療所	1 名
平成 28 年 7 月 27 日	第 4 回 FETP-J インターンシップ	健康安全研究所	1 名
平成 28 年 8 月 10 日	第 5 回 FETP-J インターンシップ	健康安全研究所	1 名
平成 28 年 8 月 16 日	第 6 回 FETP-J インターンシップ	健康安全研究所	1 名
平成 28 年 8 月 24 日	第 7 回 FETP-J インターンシップ	健康安全研究所	1 名
平成 28 年 8 月 31 日	第 8 回 FETP-J インターンシップ	健康安全研究所 中原区役所	1 名
平成 28 年 9 月 14 日	第 9 回 FETP-J インターンシップ	健康安全研究所	2 名
平成 28 年 9 月 21 日	第 10 回 FETP-J インターンシップ	健康安全研究所	1 名
平成 28 年 9 月 28 日	第 11 回 FETP-J インターンシップ	健康安全研究所 中原休日急患診療所	2 名
平成 28 年 10 月 19 日	第 12 回 FETP-J インターンシップ	健康安全研究所	2 名
平成 28 年 10 月 25 日	第 13 回 FETP-J インターンシップ	健康安全研究所	2 名
平成 28 年 11 月 2 日	第 14 回 FETP-J インターンシップ	健康安全研究所	2 名
平成 28 年 11 月 9 日	第 15 回 FETP-J インターンシップ	健康安全研究所	2 名
平成 28 年 11 月 16 日	第 16 回 FETP-J インターンシップ	健康安全研究所	1 名
平成 28 年 11 月 22 日	第 17 回 FETP-J インターンシップ	健康安全研究所	2 名
平成 28 年 11 月 28 日	第 18 回 FETP-J インターンシップ	高津区役所	1 名

平成 28 年 11 月 30 日	第 19 回 F E T P - J インターンシップ	健康安全研究所	1 名
平成 28 年 12 月 7 日	第 20 回 F E T P - J インターンシップ	宮前区役所他	1 名
平成 28 年 12 月 14 日	第 21 回 F E T P - J インターンシップ	健康安全研究所	1 名
平成 28 年 12 月 20 日	第 22 回 F E T P - J インターンシップ	健康安全研究所	1 名
平成 28 年 12 月 27 日	第 23 回 F E T P - J インターンシップ	聖マリアンナ 医科大学病院	1 名
平成 28 年 12 月 28 日	第 24 回 F E T P - J インターンシップ	健康安全研究所	1 名

(3) 健康安全研究所を中心とした実地疫学専門家による支援

ア 保健所等職員を対象とした研修会の開催

(ア) 研修会

感染症情報センター職員研修会（第 4 回 F E T P - K 研修会）

(イ) 開催目的

本市における実地疫学専門家ネットワーク構築に向けた F E T P - K プランの取組の一環として、本市における感染症関係職員の疫学調査技術のレベルアップを図る。

(ウ) 日時

平成 28 年 12 月 16 日（金） 13 時 30 分～17 時 00 分

(エ) 場所

川崎生命科学・環境研究センター（LiSE）1 階 大会議室

(オ) 内容

a 挨拶

川崎市健康安全研究所 岡部信彦 所長

b 講義

「腸管出血性大腸菌感染症調査研究の現状」

国立感染症研究所細菌第一部 大西 真 部長

c グループワーク

ケーススタディ「腸管出血性大腸菌感染症 広域事例調査の基本的スキル」

国立感染症研究所感染症疫学センター第一室 八幡裕一郎 主任研究官

(カ) 出席者

各区役所保健福祉センター、健康福祉局保健所及び健康安全研究所等の感染症対策に係る職員 39 名

イ 積極的疫学調査の専門的支援実施状況

本市における感染症や食中毒の集団発生事例等について、保健所及び保健所支所と協同で疫学調査データの解析を行う等、専門的支援を行った。また、必要に応じて対策会議に出席し、医療機関とも連携して専門的な立場から助言を行った。

【主な支援事例】

年月	支援事例	対策会議出席	医療機関との連携	その他の支援
平成 28 年 7 月	当初ジカウイルス感染症が疑われた発疹熱事例		○	
平成 28 年 9 月	渡航歴のある麻しん広域事例	○	○	
平成 28 年 11 月	腸管出血性大腸菌による広域食中毒事例		○	
平成 28 年 12 月	院内でのレジオネラ症発生事例		○	
平成 29 年 1 月	過粘稠性 <i>Klebsiella pneumonia</i> (hvKP) 感染事例		○	
平成 29 年 2 月	先天性風疹症候群 (CRS) 疑い症例	○	○	
平成 29 年 3 月	幼稚園におけるノロウイルスによる感染性胃腸炎集団発生事例			○

疫学調査支援のための初動体制及びネットワークの構築について ~FETP-Kプラン~

別添1

取組の目的 ◎市内における疫学調査支援のための初動体制及びネットワークを構築し、健康危機事象の拡大防止・再発防止に迅速に対応する。

本市の疫学調査における課題等

現状及び課題

- 疫学調査の専門的技術を有する職員が不足 → 原因究明に至らない事例も多い。
- 職員の潜在能力はあるが、疫学調査技術の習得機会が乏しい。

国レベルの対策 ~FETP-J~

- FETP (Field Epidemiology Training Program: 実地疫学専門家養成コース)**
- ・昭和50年にカナダで初めて設置され、現在全世界約30か所で設置
 - ・国レベルでは、平成11年にFETP-Japan設置
 - 健康危機事象を迅速に探知し、適切な対応を実施するコアとなる実地疫学専門家を養成
 - ・国立感染症研究所の研究協力員として2年間の実務研修を実施
 - 初期導入コース(1か月間、毎年4月)のみの参加も可能
 - ・これまでに各自治体から医師、獣医師、薬剤師、検査技師等の参加実績あり

川崎市における実地疫学専門家ネットワークの構築 ~FETP-Kawasakiプラン~

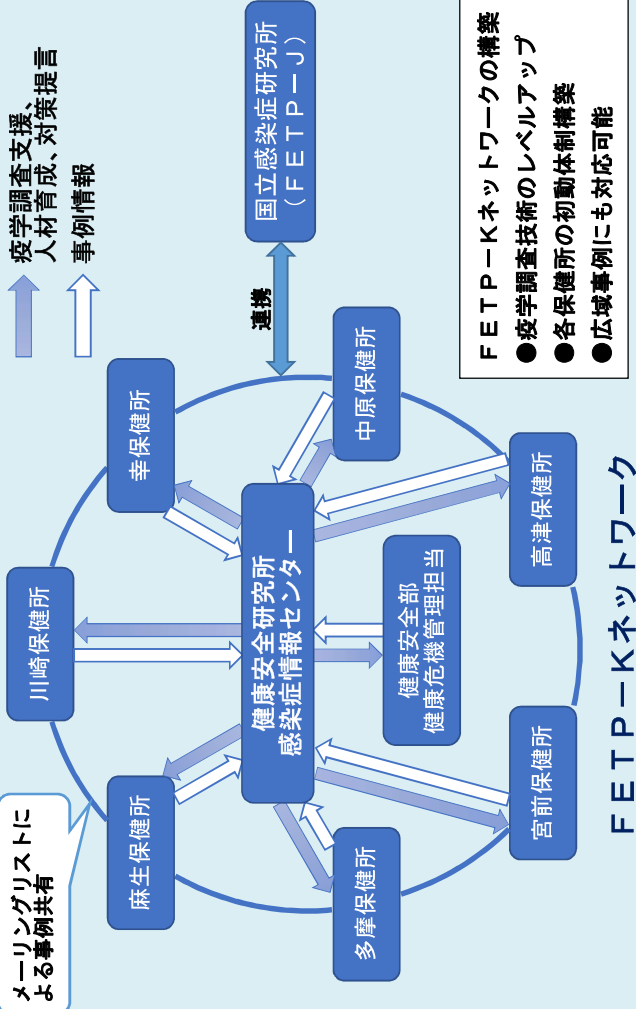
FETP-Kプランの取組-課題解決のために必要な取組

- 保健所等職員の人材育成による初動体制の構築
 - >各保健所及び健康安全研究所の職員を国立感染症研究所実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入コース(1か月間、毎年4月開催)へ派遣
 - 実地疫学専門家の育成
- 平常時からのネットワークの構築
 - >各保健所、健康安全部健康危機管理担当及び健康安全研究所の間で事例発生を共有するためのメーリングリストの立上げ
 - 事例の早期情報共有及び実地疫学専門家による早期支援体制の構築
- 健康安全研究所を中心とした実地疫学専門家による支援
 - >FETP初期導入コース修了者等を対象とした事例検討会及び職員向け研修会の開催
 - 本市における疫学調査技術のレベルアップ
 - >健康安全研究所において市内外の事例を収集し、効果的な疫学調査手法に関する研究を実施
 - 健康安全部及び保健所に対し健康危機管理対策に関する提言実施

取組による効果

健康危機事象発生時に「迅速かつ適切な疫学調査」により感染源・感染拡大状況等を特定
→拡大防止・再発防止のための対策を実施

初動体制及びネットワーク構築イメージ



実施スケジュール

取組内容	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度以降
人材育成による初動体制の構築	FETP初期導入コース派遣職員調整	FETP初期導入コース職員派遣	全区に配置	
ネットワーク構築	メーリングリスト立上げ	事例検討会開催	職員向け研修会開催	疫学調査手法の研究
実地疫学専門家による支援				感染症対策に関する提言